

認定NPO法人ぐる-ぶ藤

第19回(通算第31回)通常総会議案書

日時：2023年5月27日(土)

10:00~12:00

場所：藤沢商工会館ミナパーク

総 会 次 第

1. 開 会

2. 理事長挨拶

3. 来賓挨拶

4. 議長選出

5. 資格審査

6. 議事審議

第 1 号議案 事業報告

第 2 号議案 決算報告および監査報告

7. 報告

事業計画および事業予算

8. 永年勤続表彰

9. 閉 会

はじめに

私たちの市民参加の街づくりの活動は31年目に入りました。

1992年手漕ぎボートからスタートし2007年に「一番館・藤が岡」(飛鳥号)2017年に「二番館・柄沢」(クイーンメリー号)そしていよいよ今年8月に長期計画であった「三番館・^{かなで}奏」(クイーンエリザベス号)の進水式を迎えることになりました。ここまでには3.11東日本大震災、世界規模の感染症、戦争、物価高騰等の荒波が何度も押し寄せましたが、メンバーがいつも同じ目標に向かい、心を一つにして漕ぎ続けてまいりました。また、ご利用者とご家族、市民の皆様、関係各所の方々に支えられ育てていただきましたことに厚く感謝申し上げます。

「三番館・^{かなで}奏」は、認知症対応型グループホーム2ユニット「^{おと}音」「^{がく}楽」、障がい者グループホーム「^{うた}詩」、赤ちゃんから高齢者まで世代を超えた交流を目的としたレストラン「ぐるっぽ」により、人と社会をつなげ地域に根ざし、NPOとしての地域共生社会の役割をさらに広げてまいります。

今年度は2024年の介護保険改正前の正念場の年になります。超少子高齢化の社会において財源が圧迫されている現状では改正後も厳しいと思われませんが、介護の質を落とすことなく、住み慣れた街で安心・安全・快適に過ごせる支援体制を構築し実現してまいります。ぐるっぽ藤は50年先を見通した事業展開を考え活動しています。

第1号議案

2022年度事業報告

1. 組織運営

今年度も新型コロナウイルス感染症が収束せず、高齢者等を支援する施設として前年度同様各部門が感染対策に万全を期すよう努力した年となりました。

昨年度30周年という節目を迎え、2009年に発行された『私たち、主婦だけで「終の住処」を作りました!』の著者網中裕之氏に依頼し、30年の歩みをまとめた本『私たちの「終の住処」』を、2023年1月に発行しました。

今年度は、新しい理事長が就任し、新体制がスタートしました。会長は市民福祉団体全国協議会や民間介護事業推進委員会の会議に出席する等対外的な活動を担い、理事長は法人内を取りまとめ、会長と理事長が共に運営に当たりました。運営については、年4回の理事会で予算をはじめ事業運営に関する重要事項の検討を行いました。役員及び各事業部門の代表で構成された部門代表会議を月1回開催し、理事会での決議を踏まえて各事業に関する諸事項の討議を行いました。全会員に対する月1回の運営報告会は、Zoom報告会を継続し、運営状況の報告を行い情報の共有を図りました。

ぐる一ふ藤では、ホームヘルプを対人援助の基本と捉え、各部門のスタッフが在宅支援を経験することを方針として掲げています。今年度も多くのスタッフが部門を超えて活躍しました。コロナ禍で様々な制限がありましたが、ご入居者・ご利用者の支援のため、各部門が連携を取り合い一丸となって対応することができました。

居住支援法人「住まいる・藤」は、藤沢市の居住支援法人の中でも中心的な活動をしており、藤沢市や藤沢市社会福祉協議会などから数多くの相談がありました。

ふじさわ福祉NPO法人連絡会が立ち上げたフードバンクふじさわの事務局を担い、生活に困窮する方々への支援を行いました。フードバンクへの問い合わせはボランティアや寄付の申し出も多くあり、善意の輪の広がりを感じました。また、食糧支援だけでなく、就労支援にもつなぐことができ、福祉の受け皿としての活動を行いました。

ぐる一ふ藤の理念は、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会「共生社会」の実現に通じるものであり、障がいのある方や社会参加の機会のなかった方などの就労にも積極的に取り組みました。

2021年度より三番館建設に向けて委員会を立ち上げ準備を行ってきました。今年度は入札や補助金申請等三番館の開所に向けて様々な手続きや、打ち合わせを行い、8月に入札、10月に着工することができました。

2. 事業・活動部門

2-1 訪問介護事業（ぐるーぷ藤ホームヘルプ）

住み慣れた地域でその方らしく暮らしていただくため、ご利用者に寄り添い、心のこもったホームヘルプサービスで在宅生活を支えました。

日々の暮らしの中で困りごとや心配ごとなどを抱えながらお一人で暮らすご利用者が多くなっています。ケア中は温かく穏やかな雰囲気を感じ、その思いを傾聴し、ご利用者に安心していただけるよう努めました。ヘルパーとサービス提供責任者がチームとなり、ご利用者の体調の変化や生活の中の細かな気づきを共有し、ケアマネジャーへ繋げていくよう心がけました。ケアマネジャーへ適切に連絡することで、受診に繋がり病気が分かった事例もありました。また、ご利用者やヘルパーの周囲でコロナ感染者や濃厚接触者が発生した際には、急な依頼や変更が増え、その対応に尽力しました。

今年度から、サービス提供責任者が減員となり、それに伴いご利用者数は減りましたが、ご利用者お一人おひとりの望む暮らしを大切に、手厚いサービスができるようヘルパーと協力して支援しました。

「ほんの少しのお手伝いがあれば今の生活を続けられる」「自分で出来なくなるまでは今のまま頑張っていきたい」と感じているご利用者は多く、介護保険や障がい者総合支援事業だけでは対応できないケアなどを、自立した生活を送っていただく手助けとして本来事業をプラスしてご利用いただいた方もいました。また、長く一緒に働いていた藤会員からの依頼もあり、発足以来続く、お互いさまの精神を大切にしています。

今年度もヘルパー全体の会議は書面開催となりましたが、昨年度に引き続き、少人数でのケース会議を毎月行い、ご利用者ごとの事例検討をし、日々のケアに役立てました。また、新しくビジネスチャットを活用し、ケアを行なう上で必要な情報や気づきをその担当者間でタイムリーかつ細やかに共有することが出来ました。

2-2 通所介護事業（アクアデイ菜の花）

運動特化型デイサービスとして、健康で楽しく自分らしい生活を送っていただけるようサービスを提供しました。

機能訓練では、超音波流水プールで水中運動や関節や筋肉の可動域を広げるプレミアムジム等を行い、バランス感覚を養いプール内ではふらつくことなく歩行ができ、フロアでは立ち上がり動作や移動動作がスムーズに行えるようになりました。ご利用者は月一回体力測定を行い、その方に合ったプログラムを提供し身体機能の維持向上に繋がりました。また、看護師や介護スタッフで毎月アセスメントシートを作成し、身体状況の変化に早期に対応でき無理なく機能訓練が行えたり、ケアマネジャーやご家族との連携が図れました。

国土館大学体育学部須藤明治教授の指導のもと、超音波流水プールの良さを

伝えることができ多くの方に体験してもらいました。また、水分摂取方法、浮腫み解消や転倒予防ストレッチ体操等アドバイスをいただき健康に対する意識が向上しました。

認知機能の低下予防や他者との交流が図れるよう、和太鼓、ふまねっと運動、フラダンス体操や作品作り等を助け合いながら行い、スタッフやご利用者同士の交流が多くなりました。

スタッフは、内部研修に積極的に参加し指導技術やレクリエーション技術を習得し活気溢れる菜の花が作れるよう個々のスキルアップを図りました。

2-3 居宅介護支援（ぐるーぷ藤ケアマネジメント）

コロナ禍でもご利用者とそのご家族の感染予防と感染した人への対応なども含め、変わらずご利用者の支援に向き合ってきました。細かな情報収集やアセスメントを行うところから始め、プランをたて、丁寧なケアマネジメントを心がけました。

在宅で最期まで過ごすことを希望する高齢者の不安に寄り添い、転倒予防や感染対応、ご家族への支援、医療との連携など様々な支援について考え、在宅生活が継続できるように日々研鑽しながらその方に必要なサービスの利用に繋がるよう努めました。

今年度は入退院を繰り返すご利用者が多く、病院との連携が不可欠でした。退院後の生活に支障がないよう、サービスの導入や多職種との連携や調整をし、プランの見直しを迅速に行いました。医療依存度が高く家族介護が困難なケースは看護小規模多機能型居宅介護へ繋ぐことができました。また、認知機能の低下が顕著なご利用者も多く、不安を減らすと同時にご家族の負担軽減の為、一つの事業所で柔軟に対応できる小規模多機能型居宅介護等への移行を提案しました。それぞれその方の状態安定に繋がり、ご家族からの感謝の声を聞いた時には安堵と共に達成感を得ました。また障がい者相談支援を受けていた方が65才になり、介護保険対象者となった為、同一法人のケアマネジャーとして協力しながら支援した事例がありました。サービス付き高齢者向け住宅入居のご利用者には、コンシェルジュ、同一敷地内の通所介護事業所、小規模多機能型居宅介護事業所やレストランスタッフとのきめ細かい情報交換と協力のもと、ご利用者の意向に従いながらご家族の気持ちをくみ取った支援ができました。

地域福祉の窓口として、介護に関する一般的な相談にも相談者の思いに耳を傾け、方向性をいくつか提案しました。又、地域包括支援センターと協力して、事例を提供し、地域ケア会議に参加しました。秋から新しい仲間も加わり、外部研修や内部研修で情報を共有し、サービス事業所の見学など積極的に参加しスキルアップに努めました。

2-4 小規模多機能型居宅介護（ぐるーぷ藤 藤の花）

在宅生活を基本に「通い・泊まり・訪問」を組み合わせたサービスでご利用者とご家族が安心して過ごせるように支援しました。ご利用者の個性を大切に自分らしく過ごせる環境作りと一人ひとりの意向を尊重した対応を行いました。スタッフがご利用者に寄り添い「笑い・喜び・望み」のある生活の継続に努めました。

今年度も新型コロナウイルス感染対策を講じながら、日常生活の中で季節を感じていただくことを大切に、積極的に近隣の公園に足を運び外気浴を行いました。室内では手指のリハビリを兼ねた装飾製作等、生活リハビリを行いました。なかでも「マツケン」の壁絵製作後には、毎日マツケンサンバ体操を行い盛り上がりました。在宅生活で低下しがちな心身機能の維持回復や日常動作を保つため、ご利用者に合った個別リハビリメニューを提案しました。「アクアデイ菜の花」と連携し、超音波流水プールでの水中運動やプレミアムジムを使って体幹を整えるリハビリを行いました。近隣のスーパーへ買い物リハビリにも出掛けています。今年度もスタッフのスキルアップに「根拠のある介護」を用いて、一つひとつのケアの意味を考え共有し理解し実践することが出来ました。

6月からは常勤看護師の配置で医療との連携がよりスムーズになりました。体調や心配事を気軽に相談出来るようになり、ご利用者、ご家族、介護に携わるスタッフの安心に繋がりました。ご利用者の体調変化により医療依存度が高くなることが予測できたため迅速に看護小規模多機能型居宅介護「しがらきの湯」への移行を提案しました。また、近隣の方がご自分の体調変化に気づき「認知症の妻を置いて入院が出来ない」と相談に来られ、翌日にご主人の体調が急変し入院となり、その夜から奥様に泊まりサービスを提供し緊急対応することができました。

同一敷地内のサービス付き高齢者向け住宅のご入居者の日常生活から細かな相談まで、コンシェルジュ・マハロ・菜の花・ケアマネジャーと連携を深め、いつでも受け入れられる体制を整えました。

地域の方々との交流は、恒例のハロウィンイベントを開催し、近隣への案内チラシ配布も歩行リハビリを兼ねてご利用者と一緒に行いました。延べ100人以上の方が訪れました。「こども110番」の駆け込む場所として地域の子どもたちの身近な場所になりました。

2-5 看護小規模多機能型居宅介護（ぐるーぷ藤 しがらきの湯）

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ご利用者、スタッフ共に基本的な手洗い、マスクの着用、テーブル上のパーティション設置、換気の徹底などを継続してきました。一年を通して2回ほど数名の感染者が続けて発症しデイサービスを縮小せざるを得ない状況がありましたが、その後の対応でクラスターになることなくサービスを提供することができました。

「通い」「泊まり」「訪問介護」「訪問看護」「ケアプラン」のサービスを一体化し、医療依存度の高い方でも退院直後から在宅生活へスムーズに移行できるように支援しました。地域の民生委員からの、がん末期の方からSOSが入り急な泊まりができないかという相談には、当日に主治医や各職種と連携を取り迅速な対応でご家族の強い希望に寄り添うことができました。いくつかの疾病を抱えご利用が数日から数週間という短期間になってしまう方も多く、ご家族との信頼関係を築くことの難しさを感じつつ、思いをスタッフ間で共有しました。また、生活リハビリを中心とした機能訓練を継続し日常生活動作の向上を目指し、ご利用者の潜在機能を活かすため他事業所サービスに繋げるようにしました。

通いサービスは、リクライニング車椅子を利用する方が増えフロアに余裕がなくなる中、QOLを低下させないため事故防止に努めながらスタッフの工夫でご利用者が皆同じ空間で過ごすことができました。カルチャーや外部イベントにも制限があるものの、一部ボランティアを受け入れクリスマスコンサートや小さな臼や杵でお餅つき、車で外出し公園の花を眺めながら体操や歩行訓練を行いました。徐々に飲み込みが悪くなる方も多く食事形態も様々になっていきますが、厨房の協力で季節に合わせた行事食や誕生会にケーキなどで日常に彩りを加えることができました。

自治会行事や幼稚園の子供たちとの交流が困難でまだまだ地域社会との繋がりが薄いため、個々の存在意識を低下させないように法人内でのイベント参加を心がけました。やはり外に出ること、子供たちの声を耳にしたり、美味しい食事に出会うことなどがご利用者の笑顔を引き出し会話が弾むと痛感しました。

今年度4月にスタッフの異動があり、リーダーを始めとする個々のスタッフが目ざす内容に合った介護技術、医療知識の習得などスキルアップに努めました。ご利用者と共に防災訓練を行い必要な備品のチェックや緊急時の対処方法など確認を行い災害時に備え防災意識を高めました。

2-6 障がい者グループホーム（藤が岡の家・本藤沢の家）

20代から60代の精神・知的障がいのある方たちが、緩やかな家族のように暮らすグループホームでは、安心して社会性のある毎日が過ごせるよう支援をしました。仕事・健康・家事等生活の中で困った時に、なじみのスタッフや他部門のスタッフ、関係各機関の方たちと連携しながら支援を行う事で、その方らしい生活が続けられるよう手助けしました。開設から10年以上が経ち、高齢化により精神症状が変化したり、生活に不自由が出てきた方もいましたが、なるべくホームでの生活が続けられるようスタッフ一同サポートしました。

コロナと共に過ごした3年間、パーティーを介しての少人数での食事が定着していましたが、基本的感染対策をしながら工夫をしてイベントを再開しました。地域の夏祭りの代わりにぐるーぶ藤「秋フェス」に参加し、いつもの魚釣りで地域の子供達や高齢者に楽しんでいただくとともに、参加したご入居者

も様々な出し物を大いに楽しみました。

また忘年会では参加者全員抗原検査をしてから手作りシチューやピザ、チキンなどを皆で食べて一年間の締めくくりをしました。ご入居者は年末年始に帰省する方はほとんどなく、皆グループホームで新年を迎えます。例年の「ミニおせち」「お雑煮屋さん」「一文字書初め」「トランプ大会」を行って楽しいお正月休みを過ごせました。定例の食事会は外食を再開し、誕生日のご入居者が行きたい店を選んで皆で繰り出しました。単調になりがちな生活のアクセントとなるイベントはほとんど再開し、厨房の季節感あふれる食事も日常のなかで大きな楽しみとなりました。

市内の企業から毎年いただく「クリスマスケーキ」は地域での障がい者に対する理解の表れと思っていましたが、グループホームに10年間お住まいのご入居者がその障がい特性を理解されず、退去しなくてはならない出来事がありました。障がいに対して近隣の方に理解を得ることは難しいとあらためて気づかされました。

手芸サークル「けいと玉」も徐々に再開しボランティアとご入居者が協力して作った手芸品を秋フェスに出店する事が出来ました。

2-7 障がい者相談支援事業（計画サポートぐるーぷ藤）

障がいがあっても地域で自分らしく暮らし続けていくために、7人の相談支援専門員が様々な制度やサービス、社会資源や人を調整しその方に寄り添い、障害福祉制度を超えて、また藤沢市内にとどまらず多様な支援を行いました。

介護保険制度に移行するとこれまで利用していたサービスが変更になることもあり、ご本人やご家族に若干の混乱が見られることがありますが、法人内にケアマネ事業所がある為スムーズに移行できた事例もありました。

障がい者の相談支援はご本人の意志決定を支援する事が大切です。そのためにご本人の気持ちをよく聴き寄り添うよう最大限努力しました。そのうえで関係する事業所、医療関係者、他の相談機関、障がい者支援課等行政からの情報収集を行い、困難と思われるケースでは、基幹相談支援センターを交えて担当者会議を開いて多くの意見をもらうなど、相談支援専門員が一人で抱え込まないよう努めました。そのために相談支援専門員自身の資質向上をめざし、外部の研修には積極的に参加しました。研修で専門的知識を得る事のみならず、他事業所の相談支援専門員と話し合う機会を作り技術の向上を図りました。

2-8 高齢者住宅（ぐるーぷ藤一番館）

「終の棲家」としてお住まいの方にその方らしく心豊かに暮らしていただくために、ご本人ご家族と相談しながら介護保険による看護小規模多機能型居宅介護、小規模多機能型居宅介護、ホームヘルプ、外部事業所のデイサービスなどを利用し生活の質を維持できるように支援しました。

新型コロナウイルス感染症対策を継続し、面会はオハナを使用していただきました。自由に外出できないご入居者が、季節を体感できるようたびたび近隣への散歩を行ったり、心のリラクゼーションを図るための専門スタッフによるアロママッサージや音楽療法など行いました。少しずつボランティアのイベントも再開し、7年間続いている月1回のお茶会では、季節の美味しい和菓子と歓談で交流を図りました。

できる限りの新型コロナウイルス感染症予防を行っていましたが、ご入居者数名に陽性者が発生しました。スタッフの迅速な感染隔離対応で幸いクラスターには至らず、また一番館看護師、主治医と密に連携をとり重症化する方もいませんでした。

今年度も県からのコロナ感染症防止の指示が厳しいなかでしたが、ご家族の気持ちに寄り添い、いつでも相談できる体制をとり、その方らしく穏やかに最期の日を迎えることができるように他部門多職種とも連携を図り対応しました。最期の時を家族で看取ることができて良かったと感謝の言葉をいただきました。

2-9 サービス付き高齢者向け住宅（ぐるーぷ藤二番館・柄沢）

開設から6年が経過し90%以上の入居率で、年齢も60代から90代の方まで幅広い方々にお住まいいただいています。そのためコンシェルジュの対応も毎日の安否確認や生活相談サービスを始め救急車の緊急対応、催し物の案内、引越し支援、館内外の清潔保持等多岐に渡っています。また外回りはフードバンクの利用者で就労希望者に声掛けし、草取りや整備の仕事を担ってもらっています。夜間の緊急駆けつけ数は17件でした。その内、救急車対応0件、駆けつけのみの対応4件、その他セコムの押し間違い等13件でした。今年度は管理人に看護師を迎え、駆けつけ隊と共に更に夜中の緊急対応に備えました。ご入居者の安心・安全・快適な住空間の確保に努める多様な援助を行いました。今年度もセコムのライフ異常はその都度確認を行いました。システムの改善に課題を残しました。

今年度もコロナウイルス感染症に始まりその変異株の広がりに一喜一憂しましたが、自由に活動される元気なご入居者が多い中、サービス付き高齢者向け住宅では一人も感染者を出すことなく過ごすことができました。コロナウイルス感染症が2類から5類に引き下げられることが決定し、ウィズコロナの生活が定着しつつあります。引きこもりがちなご入居者の様子を見守りながら、折り紙教室開催やオレンジまるだい主催の脳トレ教室への参加、マハロでの鏡開きのお汁粉メニューなど少しずつ交流も戻りつつあります。

ホームヘルプ、デイサービス、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護のサービスを組み合わせて支えるなど、法人一丸となって取り組み、切れ目のない援助でご入居者ご家族を最期まで支えることを心がけました。

月一回開かれるミーティングで、同一敷地内にある小規模多機能型居宅介護、

デイサービス、居宅介護支援、レストラン等のサービス情報を一元化し、スムーズに支援内容を調整でき、サービス付き高齢者向け住宅の役割を果たすことができました。

2-10 厨房及びレストラン オハナ

新型コロナウイルス感染症防止対策の徹底、HACCPに沿った衛生管理を実行し安全で安心できる食事を提供しました。感染された方には症状に合わせた食事形態に即変更し、暖かみの感じられる使い捨て食器で対応しました。看護師、現場スタッフと連携し状況把握に努めました。

外出の機会が減った一番館にお住まいの方や看護小規模多機能型居宅介護のご利用者に様々な行事食や全国ご当地グルメ、特製のお菓子を提供する「小さな喫茶店」等のイベント食を行いささやかながら楽しみを感じていただきました。

併設のレストラン「オハナ」は本藤沢の家の夕食提供を継続し、世代に幅のあるご利用者に満足していただけるようメニューに変化をつけ対応しました。

2-11 レストラン マハロ

小規模多機能居宅介護「藤の花」に、美味しく季節感あふれる食事の提供をしました。お誕生日会のイベントや行事食にも力を入れ楽しい食事を工夫し、また看護小規模多機能型居宅介護「しがらきの湯」には、夕食用のお弁当対応も行いました。

レストランでは手作りデザート付きの日替わりご飯をリクエストに応じて提供し、二番館で働くスタッフにも好評でした。またサービス付き高齢者向け住宅にお住まいの方には、日替わりご飯・うどん・予約注文のマハロ膳（昼・夕食）等お好きなものを選んで頂ける様工夫し飽きのこない食生活を楽しんで頂きました。コンシェルジュやケアマネジャー・管理者・看護師に相談できる二番館の環境を生かしお住まいの方の体調や行動の変化にも注意し、1人ひとり大切に見守りました。

そして2021年度より施行された食品衛生法HACCPの義務化に伴い、食品の衛生管理や温度管理を徹底しご利用者に安心して食事が提供出来るよう努めました。

2-12 総合相談窓口

総合相談窓口は、看護師・保健師・介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士・ケアマネジャー等が多数在籍しているぐるーぷ藤の地域活動として、福祉・医療、住まいの相談に応じました。特に障がいサービスの問い合わせや住まいの相談件数は非常に多くありました。また、フードバンクの日頃の活動を知り、野菜やご寄付等の申し出も多数頂き、フードバンクふじさわへ繋ぎました。

地域の民生委員より退院したばかりの高齢者の対応に困っているご家族がい

ると連絡があり、スタッフが直接ご自宅に伺い看護小規模多機能の泊まりサービスを利用していただく手配を迅速に行ったことで安心に繋がったとの報告を受けました。また、一番館前の路上に体調が悪い方が倒れていた時には車椅子を用意し救急車の手配をしたこともありました。長年の経験を生かし一人ひとりの状況を理解し、弁護士・民生委員・地域包括支援センター等に橋渡しをする地域の駆け込み寺・NPO版地域包括支援センターの役割を果たしました。

2-13 地域ささえあいセンター（ヨロシク♪まるだい）

地域ささえあいセンター「ヨロシク♪まるだい」は、どなたでも利用いただける居場所として9年目を迎え、地域に定着しています。コロナ禍で地域コミュニティの在り方が変化する中、多くの方に居場所に来ていただけるような工夫をしました。一日限定20食の具たくさんのスープの提供は、秋までは持ち帰りを、12月からは店内での「みまもり食堂」を再開することができました。

ミニデイは人数制限・予約制で、人気の「ふれあい麻雀」をはじめ、頭や身体を動かして生き活きと毎日が過ごせるような内容のものを週替わりで行いました。今年度から開催の「スマホ教室」「昭和歌謡を楽しむ会」も好評です。

月1回のわくわくセミナーでは、健康に生活するための体操、終活、クラフト等を企画し、新たな利用者の参加へとつながりました。「オレンジまるだい」は脳トレやピアニストによる音楽レクを実施しました。また、地域の方がハンドメイドを展示、販売できるレンタルボックスは、パッチワーク小物や和服・和布のリメイク創作服、陶器置物、竹細工等多岐にわたり、外窓からのぞく方も多く見られました。

みまもり食堂のキッチンやミニデイの講師も地域ボランティアによるものです。また、イベントを通じて知り合った方同士の相互交流の様子もよく見受けられ、コロナ禍ですが、市民参加の地域の輪が大きくなっていると感じます。

藤沢地区ささえあい会議では自治会、民生委員、老人会、公民館、地域包括支援センター、行政等と情報交換、意見交換等行い地域作りを担う他団体との連携に努めました。より一層地域との交流を図るため、夏祭りを開催したり、公園体操や掃除に参加しました。

5月には、2023年度の放送大学の在宅看護論の教材資料作成のため、施設の撮影と慶應大学看護医療学部永田智子教授によるインタビューを受けました。

「フードバンクふじさわ」のパントリーとして月に2回、生活に困窮されているひとり親世帯、ひとり暮らしの大学生に食料支援を行いました。回を重ねる毎に利用者の実情も分かり、伴走サービスも含め関係機関への連携もできています。

2-14 子どもの生活支援事業（こども♪まるだい）

子どもの生活支援事業「こども♪まるだい」は7年目を迎えました。コロナ禍でも支援を休みなく続け、地域の温かい環境の中で子ども達に「安心して過ごせる居場所」を提供しました。今年度より高校生はボランティア参加という位置づけとなりました。

子ども達は「ただいま、今日のメニューはなんですか」のあいさつとともに元気にやってきます。家庭的な雰囲気味わえるよう、こだわりを持って食事提供をしました。誕生日の子どもたちのリクエストを受けたり、人気メニューを作ったりすることで残食がほとんどなくなりました。地域の方からご寄付いただいた家庭菜園の野菜や釣りたての魚等を大事に使用し、旬の食材や行事を取り入れて季節の移り変わりを感じてもらおうよう心がけました。

開設当初から長く連携が続いている農福連携によるたくさんの野菜や、地域の方からクリスマスケーキや果物、お菓子等をいただき、子ども食堂が認知されるようになってきたことを実感しています。

今年も卒業、進級祝いのボーリング大会と1月の餅つきを行いました。大学生のボランティアの声かけではじまるボードゲームやカードゲームでは、年の近い仲間同士の会話がはずんでいる様子が見られました。

市の担当者ともコロナの状況を確認しながら細心の注意を払って運営しました。子ども達の学校の陽性情報も共有し、クラスターが発生することなく元気に過ごせたことで「安心して過ごせる居場所」の役割を果たしました。

3. 管理部門

ぐる一ふ藤総体の事務局として管理運営に責任をもち、業務を効率的に遂行できるよう体制を整えました。定款・就業規則・労働基準法をはじめとする法令の遵守を徹底するとともに、官公庁への各種届出、コロナ感染症サービス提供体制確保事業費補助金、新しく創設されたベースアップ加算や物価高騰助成金などの申請をはじめ年々増える書類の提出を確実に行いました。

給与規定、内規の見直しをはじめ、各部門の日誌や勤務表のフォーマット作成など、法人の書類の整備、書類の見直しによる業務効率化にも取り組みました。

安全衛生委員会の抗原検査や検温集計をはじめ、各委員会の事務作業を担いました。三番館建設では入札の書類作成や市役所との交渉、複雑な補助金申請を無事終えることができました。

システム関係では、ビジネスチャットを導入することによりスムーズな連絡体制の構築やペーパーレスの推進を行いました。また、外部からシステムコンサルタントを迎え勤怠ソフトの導入やホームページのリニューアルに着手しました。

3-1 会員（メンバー）と福利厚生

メンバーの紹介により福祉のまちづくりの理念に賛同する仲間が増え、3月末で会員は146名となりました。各々の資格や能力を生かして皆がやりがいをもって働ける多様な職場づくりをめざし、自己実現の場をつくりました。

昨年度より新入会員配属後約1か月をめどに面談を行い、働き始めて感じる困ったことを解決できるようにサポートを行いました。

福利厚生の充実にも努め、働き方改革における「年5日の有給休暇取得」は対象者の100%が取得しました。福利厚生サービス「しおかぜ湘南」に加入する会員も増え、サービスを利用されています。

また、交流会主催の活動では、楽しいイベントを望む声が大きくなり、地域を元気に！をコンセプトに「ぐるーぷ藤 秋フェス」を開催しました。野菜やハンドメイド販売、バザー、グループホームによる魚釣りゲーム、フラダンス、昭和歌謡を楽しむ会等の企画に地域の方やご利用者もたくさん訪れました。皆様のあふれる笑顔にスタッフもエネルギーをいただきました。新年会として昨年度好評だった「ドリームジャンボ宝ふじ」オンライン抽選会を行い、明るい話題を振りまきました。

福祉関連有資格者（2023年3月現在・重複あり）

ホームヘルパー 1級	2名
2級	81名
Aヘルパー修了者	5名
初任者研修修了者	21名
実務者研修修了者	17名
同行援護従事者	7名
行動援護従事者	4名
同行援護サービス提供責任者	2名
ガイドヘルパー	28名
認定特定行為業務従事者 (喀痰吸引研修修了者)	11名
介護福祉士	72名
保健師	1名
看護師	7名
准看護師	2名
柔道整復師	1名
介護支援専門員	14名
障がい相談支援専門員	10名
精神保健福祉士	3名
社会福祉士	6名

社会福祉主事	2名
福祉住環境コーディネーター	5名
認知症ケア専門士	1名
学習療法士1級	1名
管理栄養士	2名
栄養士	6名
調理師	10名
食品衛生責任者	11名
キャラバンメイト	5名
普通救命講習I修了者	80名
シニア・インストラクター	2名
アセッサー講習修了者	6名

3-2 広報活動

ホームページをよりよくするためにコンサルティングを依頼し、今後リアルタイムで情報を提供できるようにシステムコンサルタントと共にチーム編成をしました。皆様に親しまれている広報誌「花どけい」は100号を迎えました。花どけいは情報提供のツールとして、ぐる一ふ藤の変わらぬ理念、2022年度新体制、三番館の完成予想図や、認知症グループホーム・障がいグループホームの詳細を掲載し、入居を待たれているご利用者や関係者へパンフレット代わりにお届けしました。併せてメールマガジン「ぐる一ふ藤通信」の配信では、ご利用者やスタッフたちの様子、細かな情報などを掲載しました。ぐる一ふ藤通信は、紙面に掲載しきれない写真や情報をより身近で親しみやすくお伝えしました。ご利用者の様子の配信は、ご家族からも好評でタイムリーな情報発信ができました。

外部研修やまるだい、一番館、二番館、サ高住の問い合わせの方などに対する資料の作成をしました。今年度もフードバンクの資料作成等を担いました。

3-3 諸団体での役割

- ・ 認定NPO法人市民福祉団体全国協議会 代表理事
- ・ 一般社団法人市民福祉支援協議会 代表理事
- ・ 民間介護事業推進委員会 委員
- ・ 藤沢市住まいと暮らし連絡会 役員
- ・ 藤沢市精神障がい者地域生活支援連絡会 委員
- ・ ふじさわ福祉NPO法人連絡会 代表
- ・ 藤沢市相談支援連絡会 委員
- ・ フードバンクふじさわ 副代表

4. 研修プロジェクト

学びの3本柱「理念と意思の共有」「スキルアップ」「新しい介護」を継承するために今年度も研修プロジェクトを設置しました。

今年度はコロナ感染対策に留意し、対面研修やリモートを活用するなど工夫をし研修を行う事ができました。第29回三重大学教授竹内佐智恵先生の研修では、リモートで「加齢に伴う身体状況の変化Ⅱ」について学び、川崎こころのケアセンター所長の臨床心理士稲富正治先生による「ストレスマネジメント」について学びました。どちらも支援者として、家族として、親として日常生活に起きる心と身体の変化と対応について学びました。「理念と意思の共有」では理事長と語る会を計8回、94名の参加で行いました。ぐる一ふ藤の基本理念とそれぞれの思いを確認、共有することができました。

管理者研修ではぐる一ふ藤のミッションとビジョンについて再確認し、管理者としての役割や自覚について学びまた三番館に向けて目標を新たにしました。「スキルアップ研修」では外部の介護予防運動指導員等から、現場で活用できるリハビリメニューの習得や根拠に基づいた言葉がけ、観察点などを学び、スタッフからは現場で学びを実践し役に立ったと声がありました。救命救急講習ではスタッフが順番に受講できるように配慮し、座学と実技体験を行い緊急時に備える技術を再度確認しました。ボランティアすみれ主催の研修では、特定行政書士・松尾陽子先生から認知症や相続に備えた「信託」の制度について身近な事例を活用して学ぶことができました。

5. 安全衛生委員会

今年度も新型コロナウイルス感染症対策に追われた一年でした。幅広い年齢層のご利用者や重症化しやすい高齢者施設として、国や県、市の指針や連絡事項など感染症対策についての情報を素早くキャッチし共有を図りました。

ご利用者やスタッフの感染や濃厚接触者が出る中、法人全体で協力しクラスターにならないよう感染拡大防止に努めてきました。家族面会の人数制限、時短を行い入居者、スタッフのワクチン接種を積極的に勧め4回目～5回目の接種が終了しています。11月最終週より集中検査として藤沢市から配布された抗原検査キットを活用し、全会員に週2回の自己検査を実施報告してもらいました。国の新型コロナウイルス感染症対策緩和が発表された際には、委員会で話し合い見直しを図り感染者の療養期間や濃厚接触者の待機期間の短縮を状況に合わせて実施しました。

現在社会において様々なハラスメントが問題になっているため委員会の中でハラスメント部会を設置しスタッフ自ら声を出しやすい場を作りました。そこで職場の中の言動がハラスメントと受け止められていないか、またパワハラを受けてストレスを抱えていないかなどを考えていくために、毎年行っている「ストレスチェック」を今年も実施し、質問や相談には丁寧に答え不安や緊張を取り

除くよう対応しました。「心の相談」窓口として三重大学竹内佐智恵教授の協力をいただきメールで直接相談できることも周知しています。

6. 防災委員会

今年度もコロナ感染症予防のため、大規模な訓練はできませんでしたが、部門ごとの訓練などでスタッフが密にならないように工夫し訓練を行いました。全体の防災訓練は二番館で防災トイレの組み立てを行いました。いざというとき組み立ても難しくなく、井戸水を利用した水洗トイレは有用だと感じました。

一昨年度に着手したBCPは、多くの研修を受け様々な書式を参考にし、各部門ごとの感染症対応と法人全体の自然災害対応の2種類が完成しました。今後、感染症対応は安全衛生委員会、災害対応は防災委員会が管理していくこととしました。

防災備蓄品は常にローリングストックを念頭に備蓄し、一年に一度の電気点検時、蓄電池の点検をしました。また非常灯の維持管理等を行い常に適正な状態を保つようにしました。

7. 虐待防止・身体拘束適正化委員会

2022年度から「障がい者虐待防止のさらなる推進」と「身体拘束の適正化」が義務化されました。それに伴い、障がい者、高齢者を対象とした「虐待防止・身体拘束適正化委員会」を設置しました。専任の担当者の配置、委員会の定期的な開催、検討結果の周知徹底、「虐待防止のための指針」「身体的拘束適正化の指針」を整備しました。また指針に基づいた研修プログラムを作成し実施することでスタッフの意識啓発を図りました。

8. 居住支援チーム 住まいる[▲]藤

5年目を迎えた国土交通省の「共生社会実現に向けた住宅セーフティネット機能強化・推進事業」を受託し、住宅確保要配慮者の民間住宅への入居に関わる情報提供、相談、不動産店への同行、物件紹介、内見同行、契約のお手伝い、その後の生活相談、見守りなどの入居支援・継続支援を行いました。

行政や社会福祉協議会、地域包括支援センター等からの相談も増え、その結果141件の電話や来訪による相談がありました。63件の同行・マッチング支援を行い、サービス付き高齢者向け住宅等の施設には8件、民間賃貸住宅には14件の入居のお手伝いをしました。「住まいる藤」のこれまでの活動が生かされ、行政からの信頼もなお一層厚くなり、特に藤沢市生活援護課から生活保護を受給されている方の住まい探しの相談が増えました。藤会員による住まいる隊の活動では、入居時の引越しや安否確認の訪問等を行っています。

藤沢市居住支援協議会の活動の中で、8月に「令和4年度藤沢市居住支援・住まい探し相談会」を開催しました。相談会では、新たな不動産業者と顔の見える

関係ができました。また、神奈川県居住支援協議会・居住支援部会では来年度行われる「居住支援に関するコーディネーター（仮称）育成」の活動メンバーに選ばれました。イベント企画として講演会が2月に行われ、パネルディスカッションでは福祉の立場から参加し発表しました。

外部研修は、特定非営利活動法人WAC清水さわやかサービス主催のセミナー（静岡県）、市民協主催セミナー（大田区）、NPO法人横浜市まちづくりセンター主催のセミナー等に参加し、他地域の情報を得たり参加者と意見交換を行い活動に活かすことができました。

9. 外部活動

幼児教室どんぐり園、コンフォール藤沢自治会、柄沢町内会、ボランティアすみれ及び他団体と連携しながら地域に根ざした活動を行いました。地域で地道な活動をするNPOや障がい者団体等に「まちづくり対策費」を活用しそれぞれの活動を支援してきました。また、パラスポーツ支援のための寄付活動である「ふくのわプロジェクト」にも協力しました。

ふじさわ福祉NPO法人連絡会は代表として、コロナ禍の影響により書面開催となる事もありました。生活困窮者への食料支援活動「フードバンクふじさわ」は予想をはるかに超えた反響があり、多くのボランティアと共に活動し、ぐるーぷ藤が事務局を担いました。また、就労支援にもつなげ、利用者に伴走する事業として活動しました。

市民協の代表として民間介護事業推進委員会の委員を務め、厚生労働省老健局課長と意見交換を行いました。様々な機会を通して、ぐるーぷ藤の活動を広く紹介するとともに啓発活動を行いました。

※市民協：認定NPO法人市民福祉団体全国協議会

◇講師

7/25 フードバンクかながわ

10/25 会津若松市「ぐるーぷ藤まちづくり」

10/22 関内イノベーションイニシアティブ(株)

12/22 武蔵野大学ビデオ講師

◇取材・見学等

見学：5/18 社会福祉法人そよかぜ（九州）

6/06 県会議員

10. 三番館建設委員会

“福祉のまちづくり”をめざし地域の福祉の拠点として、自分らしくいきいきと暮らせる場や、多様なメンバーがお互いに助け合って働く場を作り出す事を目的として着手した三番館は10月に地鎮祭を行いました。SDGsの取組みとして二番館同様の井戸の掘削を皮切りに近隣の方々の理解を得ながら順調に進捗しています。来年度の開所に向けて室内設備について検討を重ね什器備品の選定をしました。当初、産後ケアセンターを予定した場所には親子が地域社会交流できる場としてレストランを計画し、子育ての応援策を考えました。

建物の名称を「三番館・奏（かなで）」とし、認知症対応型共同生活介護「音（おと）」「楽（がく）」、障がい者グループホーム「詩（うた）」、レストラン「ぐるっぽ」に決定しました。

今年度で三番館建設委員会を解散し三番館準備室に移行しました。

第2号議案

2022年度決算報告書及び監査報告

2022年度 活動計算書（特定非営利活動に係わる事業）

2022年4月1日から2023年3月31日まで

NPO法人ぐるーぷ藤

(単位：円)

科	目	金	額
I	経常収益		
1	受取会費		
	藤会員年会費等収入	2,000	
	さわ会員年会費等収入	35,000	
	賛助会員年会費等収入	15,000	52,000
2	受取寄付金		
	寄付金収入		1,621,339
3	受取助成金等		
	助成金・補助金収入	10,488,120	
	委託金収入	8,873,574	19,361,694
4	事業収益		
	事業収入		448,876,438
5	その他収益		
	受取利息	620	
	雑収入	6,704,994	6,705,614
	経常収益 計		476,617,085
II	経常費用		
1	事業費		
(1)	人件費		
	給料手当等	209,716,110	
	有償ボランティア	2,160,080	
	通勤交通費	3,203,753	
	福利厚生費	429,834	
	人件費 計	215,509,777	
(2)	その他経費		
	食材費	16,742,608	
	印刷製本書籍費	1,395,507	
	会議・研修費	160,986	
	旅費交通費	1,536,513	
	通信費	3,488,172	
	消耗品費	6,606,299	
	修繕費	2,055,073	
	水道光熱費	16,620,920	
	家賃支出	8,789,000	
	リース料	7,709,921	
	減価償却費	379,251	
	生活支援CD事業費	1,878,726	
	保険料・管理諸費	6,152,871	
	街づくり対策費	274,733	
	雑費	504,456	
	その他経費 計	74,295,036	

(3) 事業・間接費			
給料手当等	41,587,418		
賞与手当	10,198,000		
法定福利費	30,083,532		
家賃・地代家賃	4,799,830		
支払利息	18,349,270		
租税公課	7,170,000		
減価償却費	41,296,757		
事業・間接費 計	153,484,807		
事業費 計		443,289,620	
2 管理費			
(1) 人件費			
給料手当等	3,727,992		
有償ボランティア	130,193		
通勤交通費	243,314		
福利厚生費	2,836,035		
人件費 計	6,937,534		
(2) その他経費			
印刷製本書籍費	921,176		
会議費	146,894		
旅費交通費	297,877		
販売物品費	859,359		
通信費	360,432		
消耗品費	45,470		
修繕費	222,880		
水道光熱費	250,470		
家賃支出	455,000		
リース料	5,453,429		
研修費	94,698		
交際費	379,653		
保険料	1,577,351		
管理諸費	4,638,521		
雑費	476,024		
その他経費 計	16,179,234		
管理費 計		23,116,768	
経常費用 計			466,406,388
当期経常増減額			10,210,697
III 経常外収益			
経常外収益 計			0
IV 経常外費用			
1 固定資産除却損		0	
経常外費用 計			0
税引前当期正味財産増減額			10,210,697
法人税、住民税及び事業税			70,000
当期正味財産増減額			10,140,697
前期繰越正味財産額			117,162,172
次期繰越正味財産額			127,302,869

2022年度 貸借対照表

2023年3月31日現在

NPO法人ぐるーぶ藤

(単位：円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	1,303,338	
小口現金	3,802,000	
普通預金	76,489,434	
未収金	54,122,023	
棚卸資産	499,834	
貯蔵品	2,275,299	
前払金	2,468,326	
立替金	213,748	
流動資産合計		141,174,002
2 固定資産		
(1) 有形固定資産		
建物	881,932,064	
建物附属設備	26,739,391	
構築物	24,314,595	
車両運搬具	1,190,617	
什器備品	1,742,551	
土地	166,519,448	
有形固定資産計	1,102,438,666	
(2) 無形固定資産		
水道施設利用権	3,441,878	
電話加入権	180,600	
ソフトウェア	89,100	
無形固定資産計	3,711,578	
(3) 投資その他の資産		
保証金	525,251	
敷金	1,683,000	
投資その他の資産計	2,208,251	
固定資産合計		1,108,358,495
3 繰延資産		
三番館開設準備金	235,107,438	
繰延資産合計		235,107,438
資産合計		1,484,639,935
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	29,156,336	
前受金	7,314,817	
短期借入金	164,200,000	
預り金	3,338,195	
預り保証金等	26,397,000	
仮受金	41,155	
流動負債合計		230,447,503
2 固定負債		
長期借入金	852,389,563	
擬似私募債	274,500,000	
固定負債合計		1,126,889,563
負債合計		1,357,337,066
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		117,162,172
当期正味財産増減額		10,140,697
正味財産合計		127,302,869
負債及び正味財産合計		1,484,639,935

(注)

- ・ 財務諸表の作成は NPO 会計基準(2010.7.20 2011.11.20 一部改正 NPO 法人会計基準協議会)によっています。
- ・ 消費税等は税込経理により処理しています。

2022年度 財産目録

2023年3月31日 現在

NPO法人 ぐるーぷ藤

(単位：円)

科 目		金 額	
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	現金手許有高	1,303,338	
小口現金		3,802,000	
普通預金	7口座	76,489,434	
未収金	国保連未収金	42,091,817	
	利用者未収金	10,997,554	
	その他未収金	1,032,652	54,122,023
貯蔵品	販売物品	2,402,843	
	食材	249,562	
	会員用消耗品	122,728	
前払金	前払保険料	1,207,948	
	前払いその他	1,260,378	
立替金		213,748	
流動資産合計			141,174,002
2 固定資産			
(1) 有形固定資産			
土地	一番館 藤が岡	166,519,448	
建物	一番館 藤が岡	222,992,886	
	二番館 柄沢	658,939,178	
建物附属設備	一番館 藤が岡	26,407,246	
	二番館 柄沢	332,145	
構築物	一番館 藤が岡	142,885	
	二番館 柄沢	24,171,710	
車両運搬具	自動車7台	1,190,617	
什器備品	一番館 藤が岡	936,758	
	二番館 柄沢	805,793	
有形固定資産計		1,102,438,666	
(2) 無形固定資産			
水道施設利用権	二番館 柄沢	3,441,878	
電話加入権		180,600	
ソフトウェア		89,100	
無形固定資産計		3,711,578	
(3) 投資その他の資産			
保証金	セコムAED等	525,251	
敷金	藤が岡 駐車場5台ほか	1,683,000	
投資その他の資産計		2,208,251	
固定資産合計			1,108,358,495
3 繰延資産			
繰延資産			
三番館開設準備金		235,107,438	
繰延資産合計			235,107,438
資産合計			1,484,639,935
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	従業員給料	18,070,300	
	諸経費等	11,086,036	
前受金	高齢者住宅入居金等	7,314,817	
短期借入金	三番館建設費等	164,200,000	
預り金	社会保険料等	3,338,195	
預かり保証金	高齢者住宅敷金等	10,723,000	
	グループホーム敷金	1,938,000	
	サービス高齢者住宅敷金	13,736,000	
仮受金	湘南勤労者会費他	41,155	
流動負債合計			230,447,503
2 固定負債			
長期借入金	横浜銀行 二番館・柄沢	613,400,000	
	横浜銀行等	238,989,563	
擬似私募債	一番館・藤が岡	88,000,000	
	二番館・柄沢	96,500,000	
	三番館・奏	90,000,000	
固定負債合計		1,126,889,563	
負債合計			1,357,337,066
正味財産			127,302,869

監 査 報 告 書

NPO法人ぐるーぷ藤
理事長 藤井 美和 殿

下記の通り監査をいたしましたので、ご報告いたします。

記

- ・ 監査実施日 2023年5月16日
- ・ 立 会 人 理事長 藤井美和 会長 鷺尾公子 専務理事 佐藤律子
常務理事 笹原美恵子 事務長 佐藤由実
- ・ 監査対象期間 2022年4月1日～2023年3月31日
- ・ 監 査 方 法 実査及び立会人からの聞き取り

1. 会計監査

- ・ 諸伝票、預金通帳、現金、証憑書類並びに活動計算書、貸借対照表及び財産目録などについて実査した結果、いずれも適正に処理されていることを認めます。

2. 業務監査

- 理事長藤井美和氏および会長鷺尾公子氏から2022年度事業に関する概要説明を受け、当該事業計画に沿って監査を実施しました。
- ・ 藤井理事長が就任した今年度は、前期に引き続きベテランと中堅が重層的にささえあい地域に根づく安定した運営ができており心強い限りです。
 - ・ 3年にわたるコロナ禍の影響を乗り越え過去最高の事業高及び黒字決算という結果は、各部門での管理者はじめスタッフの皆さまの努力の賜と評価いたします。
 - ・ 30周年記念事業を締めくくる記念誌としてPHPから発行された『私たちの「終の住処」』は、スタッフの皆さまにとって創立の理念に立ち返り今後の藤を発展させていくための貴重な書籍になったことと拝察いたします。
 - ・ いよいよ8月に開所を迎える「ぐるーぷ藤三番館・奏」は、ぐるーぷ藤の集大成として大いに期待しております。

2023年5月16日

監事 小野 淑子



監事 藤澤 抱一



報告

2023年度事業計画

I. 事業方針

(1) 基本方針

年をとっても、障がいがあっても、病気になっても安心して暮らせる地域社会をつくるため、特定非営利活動法人として社会的責任を果たすとともに、市民相互の助け合いのまちづくりをめざします。

(2) 運営方針

1. 組織運営

認定NPO法人ぐるーぷ藤は、趣旨書および定款にもとづき事業を行います。理事会の議決を経て事業と活動の方針について討議する運営会議を月1～4回行います。そこでまとめられた提案事項について毎月開かれる部門代表会議で検討し、その後全メンバーを対象に開催される運営報告会で活動を共有します。また、各部門会議において会員の意見交換を行いその内容を事業活動に反映させる運営をめざします。

昨年度は7名の新しい仲間を迎えそれぞれの部門で活躍してもらうことができました。今年度の三番館開所に向けメンバーが増えることが予想され、新メンバーには言葉遣い・接遇マナー・就業規則などを盛り込んだ新人研修や各部門での約20時間の現場研修を通してぐるーぷ藤の歴史や理念、事業を理解してもらうよう努めます。新初任者研修・実務者研修・介護福祉士・介護支援専門員・相談支援専門員・社会福祉士・精神保健福祉士・調理師等の資格取得を目標に活動するよう引き続き働きかけます。

今年度もホームヘルプを対人援助の基本と捉え、各部門のスタッフが在宅支援を経験することをすすめます。また、ぐるーぷ藤の歴史や創設の理念を共有し継承することを大切にしていきます。

三番館が開所となり、新しい部門も増えるため、部門間の連携を密にし組織力を高めていきます。ご入居者・ご利用者の方々の笑顔があふれるよう環境の整備、スタッフのスキルアップにも一層力を入れます。

2. 事業・活動部門

2-1 訪問介護事業（ぐるーぷ藤ホームヘルプ）

住み慣れた地域で安心してその方らしく暮らしていただくため、ご利用者に寄り添い心のこもったホームヘルプサービスを心がけます。

安心して在宅生活を継続していただくために、ご利用者の思いに耳を傾け、体調の変化や日々の小さな気づきを大切にしながら支援していきます。また、ヘルパーとサービス提供責任者がチームとなり課題だけでなくポジティブな情報も共有し、さらに、ケアマネジャーや相談支援専門員などと連携・調整をしながら、ご利用者だけでなくご家族にも安心していただけるよう在宅生活を支えます。

本来事業では、その方らしい暮らしを継続するための保険外サービス、緊急時の対応、子育て支援等、様々なニーズに応え、ぐるーぷ藤らしいサービスを行います。

会議・研修では、今年度も対人援助の基本の確認を行い、介護技術や意識の向上に努めます。さらに、昨年度に引き続き、少人数でのケース会議を行い、個々の事例における意見を交換・共有し、より良い介護をめざします。また、ケアプランデータ連携システムの導入や研修報告書の提出方法について、ICT化を図るよう努めます。

2-2 通所介護事業（アクアデイ菜の花）

運動特化型デイサービスとして、住み慣れた地域で自分らしく生活していただくため、地域に密着しご利用者の健康寿命に繋がられるようサービスを提供します。

定期的に体力測定を行い日常生活動作の維持・向上をめざし、その方に合ったプログラムを作成し目標が達成できるようサポートします。看護師と介護スタッフが連携を図りアセスメントシートを作成します。

機能訓練では、超音波流水プールでの水中運動をはじめ関節や筋肉の可動域を広げるプレミアムジム等を行い、立位姿勢の保持や歩行動作の改善に取り組みます。また、身体状況の変化に早期に対応し、ケアマネジャーやご家族とも連携を図っていきます。

国土館大学体育学部須藤明治教授の指導のもと、ご自宅でも健康に対する意識が高められるように支援します。

その他に、レクリエーションや脳トレ等楽しく行いながら認知機能の低下を予防し、助け合ったり、交流が図れるよう環境を整えます。

スタッフは、会議や研修で専門技術の向上に努め、超音波流水プールの良さと効果を伝え、多くの方に体験していただき地域の方々の健康を支えられるよう情報の発信に努めます。

2-3 居宅介護支援(ぐるーぷ藤ケアマネジメント)

住み慣れた地域で自分らしく暮らす為、ニーズに沿った公正中立なケアプラン作成に努めます。ご利用者の身体状況や変化に応じて、医療との連携を密にし、的確なケアプランの見直しをするとともに、ご本人やご家族が孤立せず在宅生活が送れるよう支援します。

地域の福祉コーディネーターとして、地域包括支援センターや自治会、地区民生委員と連携をとりながら、近隣にお住まいの方々の相談に迅速に対応していきます。

今年度は特定事業所加算要件を満たす事業所となり、ご利用者とご家族にとって質の高い介護サービスプランを実現するために、きめ細かなアセスメントとケアプラン、正確なモニタリングを行えるように専門的な知識の習得を心がけます。

また、利用者情報やサービス提供上の留意事項などの伝達を目的とした会議を週1回以上定期的に開きます。地域包括支援センターが主催する事例検討会や外部法人の居宅介護支援事業所との共同事例検討会、内部研修の充実と外部研修への積極的な参加を行い、一層の専門的知識を積みケアマネジャーの質の向上に努めます。

2-4 小規模多機能型居宅介護(ぐるーぷ藤 藤の花)

在宅生活を基本に「通い・泊まり・訪問」を組み合わせたサービスで、住み慣れた地域で過ごせるようご利用者、ご家族と信頼関係を築き丁寧なケアを行います。スタッフがご利用者に寄り添い「笑い・喜び・望み」ある生活の継続に努めます。

今年度もご利用者に季節感を大切にした生活リハビリを提案し、個別リハビリメニューにより加齢による心身機能の低下防止に取り組みQOLの維持回復に努めます。また、地域の方々やご家族へ認知症について共に理解を深める機会を作ります。

同一敷地内のサービス付き高齢者向け住宅の方々の日常生活支援から精神的な支援まで、コンシェルジュ・マハロ・菜の花・ケアマネジャーと連携を深め、いつでも対応できる体制を整えます。スタッフはご利用者の個別性を理解し「根拠ある介護」を実践します。

2-5 看護小規模多機能型居宅介護(ぐるーぷ藤しがらきの湯)

医療ニーズの高い方や退院後の療養生活を送る方々が安心して在宅で暮らせるように、「通い」「訪問」「泊まり」「訪問看護」「ケアプラン」のサービスを一体化し、在宅の受け皿としてトータルケアを行います。「住み慣れた地域や自宅で最期を迎えたい」ご利用者と、「在宅で看取りたい」というご家族の思いに寄り添い一人ひとりに合わせ柔軟な支援をします。

感染症対策を十分に行いながら居心地の良い環境を作り、コミュニケーションを通しそれぞれの方の笑い・喜び・希望を引き出し身体的、精神的なサポートを行います。自治会やボランティアの協力を得て、外出の機会を持ち地域との交

流を図り社会との繋がりを大事にしていきます。

いつでも安心してご利用いただけるように、認知症や疾患の理解等独自の研修を行いさらなるスキルアップを目ざします。介護・医療の連携を深めると共に運営推進会議などを活用し藤沢市、民生委員、地域包括支援センター等と情報交換を密にし包括的なサポートを行います。

2-6 障がい者グループホーム(藤が岡の家、本藤沢の家)

ゆるやかなもう一つの家族として安心できる生活の場を提供していきます。日常生活の中での困り事を自ら解決する力を引き出し、心身の状態の変化に上手に対応していけるよう自己決定支援を行います。それぞれのグループホームの特色を生かし様々な人との関わりあいの中で、より自分らしい生活が維持できるよう支援します。

毎日の夕食提供を中心にコロナ下では控えていた入居者同士の会話や楽しい活動を再開し、今年度は地元自治会のお祭りや地域の防災訓練などのイベントに参加する等、生活の幅を広げる活動に力を入れます。

高齢化による体力低下や病状の変化で、通所出来なくなったり、環境による不適應が生じないように入居者一人ひとりの状況に応じて、就労先、日中支援事業所、医療機関等と連携しながらそれぞれの自立に向けてサポートします。また三番館の開設を機に、住まい方の検討も視野に入れていきます。

2-7 障がい者相談支援事業(計画サポートぐるーぷ藤)

障がいがある方やそのご家族の相談にのることで、その方なりの問題解決の方向性を共に探り、ご本人の最善の利益を考え意思決定支援を行います。専門的な知識と経験を生かし、主として精神障がい者、知的障がい者のサポートを行います。

在宅サービス利用の支援だけでなく、グループホームへの入居支援、就労への支援を行う中で、生活そのものの問題、医療、金銭、家族関係、成年後見の問題等、障がい福祉以外の知識や行政等との連携が必要なケースが増えてきました。相談支援専門員がさらに障がいの理解を深め、多種多様な問題に対応できるよう、また相談面接の技術を磨くために外部研修に積極的に参加します。

障がいもその方の抱える問題も皆異なります。一つひとつのケースに丁寧に対応することを大切に、困難なケースについては担当者が一人で抱え込まず、問題解決に向かってより良い支援ができるよう、法人内・外で連携して取り組んでいきます。

2-8 高齢者住宅（ぐるーぷ藤一番館）

お住まいの方にその方らしく心豊かに暮らしていただき最期までご家族と共に寄り添うように努めます。ご入居者の希望や機能に応じて介護保険による看護小規模多機能型居宅介護、小規模多機能型居宅介護、ホームヘルプ、デイサービスなどを利用し、生活の質を維持できるよう支援します。主治医とコミュニケーションを密にし、訪問歯科、訪問リハビリ、訪問眼科などと連携をはかり健康管理を行います。

また、暮らしの中で心の充実を図るためお一人おひとりとの対話や、ご家族の声を大切にし、想いや望みを叶えられる機会を提案していきます。フロアでの集まりや外出など季節感を感じられる時間を持ち、穏やかで笑顔のある生活が続くよう、環境づくりに配慮します。

「おもてなしの心」を基本としマナー研修などスタッフ一同、知識・技術の習得に努め、もう一つの家族としての役割を担えるよう意識を高めます。

2-9 サービス付き高齢者向け住宅（ぐるーぷ藤二番館・柄沢）

介護資格を保有しているコンシェルジュに加え看護師の管理人と協力して、お住まいの方々に更に安心・安全・快適の住まいを提供します。丸三年間に及んだコロナ禍で変化しつつある生活様式も取り入れた、ゆるやかな感染症対策を行なっていきます。引き続きマハ口をもう一つのリビングと捉え、日ごろのコミュニケーションを大切にしていきます。

また隣に開所する三番館・奏の情報を、ご利用者やご家族に丁寧に説明していきます。終の棲家についての様々な選択肢が増える中、ご入居者に寄り添い個々の生き方を尊重しながら集合住宅としての援助を心がけ、満足度の高いサービス付き高齢者向け住宅の運営を行います。

併設する介護保険事業所の応援を得て情報交換を密にし、法人の二番目の拠点としてご入居者や地域の安心を支える役割も担います。近隣や包括支援センターに呼びかけての防災訓練も実施し、三番館と協力して地域の防災拠点としての位置づけを明確にしていきます。災害発生時には空き室を提供するなど、NPOらしい地域の安心を支える福祉施設をめざします。

2-10 厨房及びレストラン オハナ

感染症防止対策の徹底、HACCPに沿った衛生管理を実行し安全で安心できる食事を提供します。高齢者住宅やグループホームにお住まいの方、看護小規模多機能型居宅介護のご利用者に管理栄養士指導のもと最適な栄養バランス、五感を刺激する季節感のある食事を提供します。また身体の状態、病状に合わせた減塩食・胃腸食・ソフト食等に対応しご利用者が健康を維持できるよう努めます。

レストラン「オハナ」は引き続き「本藤沢の家」の夕食の提供を行います。

2-11 レストラン マハロ

サービス付き高齢者向け住宅の第二のリビングとして、美味しい食事と集いの場を提供します。今年度はご入居者の皆様と相談をしながら季節感を取り入れたイベントを開催します。

小規模多機能型居宅介護には、誕生日会のケーキや季節に合わせた行事食を提供します。

悪天候等緊急時の対応も引き続き行い、利用者の健康状態や生活スタイルに合わせたお弁当の販売も行います。

「ぐるーぷ藤二番館・柄沢」全体の食を担い、コンシェルジュや他部門のスタッフと連携を取りながらお住まいの方の日々の様子を見守ります。

2-12 総合相談窓口

総合相談窓口では看護師・保健師・介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士・ケアマネジャー等が常駐し、地域の駆け込み寺として福祉・医療・住まいに関するあらゆる相談に応じます。地域での経験を生かし、緊急のSOSに24時間対応するとともに、必要に応じて弁護士・民生委員・地域包括支援センター・地域ささえあいセンター「ヨロシク♪まるだい」・子どもの生活支援事業「こども♪まるだい」・居住支援チーム「住まいる藤」・月に一度の認知症カフェ「オレンジ・まるだい」等に橋渡しをする、NPO版地域包括支援センターの役割を担います。また、税理士による税務相談、保健師・看護師による健康相談も続きます。

これからも「福祉のまちづくり」をめざす一環として、相談者に向き合いながら丁寧に対応します。

2-13 地域ささえあいセンター（ヨロシク♪まるだい）

「ヨロシク♪まるだい」では、みまもり食堂を中心に、多世代にわたる地域の方々が気軽に立ち寄れる憩いの場・居場所を提供していきます。地域の中で孤立したり、生活に不自由を感じている人に手助けをします。また、社会参加の入り口としての働く場を提供します。

コミュニティの在り方が変化する中、多くの方に居場所に来て対面で交流していただけるような工夫をし、ニーズを把握したり、担い手作りに繋がるようにしていきます。また「フードバンクふじさわ」の拠点として活動します。

生活支援コーディネーターとして利用者の相談に対応し、社会資源の発掘とマッチングに努めます。地域包括支援センター、民生委員、自治会員、行政等と連携し、藤沢地区支え合い会議、生活支援コーディネーター会議等では情報交換、意見交換を行い、他の縁側事業者と共に手を取り合って地域作りに努めます。

2-14 子どもの生活支援事業（こども♪まるだい）

地域の温かい環境の中で子どもたちに、「安心して過ごせる居場所」、保護者には「安心して子どもを託せる場所」を提供していきます。家庭的な雰囲気味わってもらい温かいうちに食べてもらえるよう美味しい夕食を提供します。

今後マスクが外れるようになってもまずは感染予防の検温、手洗いは続きます。そして好みや環境の違う子どもたちが、みんなで同じものを食べることで基本的な生活習慣を身につけられるよう支援していきます。

ボランティアやスタッフと一緒に複数が参加できるボードゲーム等で会話が弾み楽しめるよう工夫します。季節毎の様々なイベントや農福連携事業、フードパントリー、地域との繋がりを子どもたち自身が感じられ、地域の中で健やかに成長できるよう見守り支援していきます。

3. 管理部門

ぐるーぷ藤総体の事務局として、管理運営に責任をもち効率的に業務を遂行できるよう努めます。各部門の請求業務、官公庁への各種届出、他団体や事業者との折衝を確実にを行います。予算の執行にあたっては、人員配置・物品管理・水道光熱費すべてにおいて無駄を省き経費節減に配慮します。必要な物品が過不足なく調達できるよう努めます。各部門と連携をとり、書式の見直しや簡素化、ICTの導入により、事務の効率化を図ります。

事業拡大によって増加する個人情報の保護には、なお一層配慮しセキュリティの管理を徹底します。

3-1 会員（メンバー）と福利厚生

まちづくりの理念に賛同する仲間を増やします。メンバーの資格や能力を生かして、皆が自分らしくはつらつと働ける多様な職場づくりに努め、自己実現の場をつくりまします。また、コロナ禍以前のように多くのメンバーが参加し親睦を深められるような交流会を企画し、福利厚生サービス「しおかぜ湘南」の加入を勧めまします。有給休暇の取得の推進、健康診断、各種食事代補助、休業補償等より一層福利厚生の充実を図ります。

3-2 広報活動

システムコンサルタントを迎え、既に次のシステムに向けて動き出しています。ホームページも一新し内容の充実を図り、分かりやすくタイムリーに藤の活動や情報を紹介していきます。認定NPO法人として地域に根付いた活動を紹介し、多くの方々と一緒に街づくりを進めることが出来るよう情報共有をしまします。地域に定着してきた広報誌「花どけい」は、ご利用者や見学者に提供し、メールマガジンは配信回数や内容も充実させ、閲覧者数を増やします。様々な媒体を通し、ぐるーぷ藤の街づくりの広報に努めます。

法人全体の紹介が出来るパンフレットや「三番館・奏」の建設に伴い、認知症グループホームと障がい者グループホームのパンフレットを作成し、ご利用者やそのご家族、ケアマネジャーや地域包括支援センター等へ配布します。また、事務局を担っている「フードバンクふじさわ」の広報資料も作成します。

4. 三番館・奏

今年度8月のオープンに向けて環境整備、設備の充実、スタッフの育成等をし、ご入居者を迎え入れる態勢を整えます。

障がい者グループホーム「ぐるーぷ藤 詩」はご入居者の生活の相談、家事等の生活上のサポートをすると共に法人内の他部門との協働や地元自治会に参加するなど地域での役割の一端を担っていきます。障がいの重度化、高齢化にも対応出来るように看護師をはじめ経験豊かなスタッフの見守りを通して病状の変化に機敏に対応して安定した生活が継続できるよう支援します。

認知症対応型グループホーム「ぐるーぷ藤 音楽」はご本人の希望とご家族の願いを叶え、その方の個性を尊重し安心して自分らしく暮らせるよう24時間体制で支援します。

両グループホームの食事は管理栄養士の指導、レストランぐるっぽ協力のもとワンランク上の食事を提供します。目の前で揚げる天ぷらや五感で感じる創作メニュー、身体状況に合わせた食事形態に対応し、食事の楽しみを持ち続けていただけるよう努めます。

「レストランぐるっぽ」は世代を超えた社会交流の場として地元根づくよう、イベント等様々な試みに挑戦します。

5. 研修プロジェクト

日々の業務の中で各メンバーが目標に向かって自己実現を図ることが藤全体の介護の質を高めていくと考え、今年度も『理念と意思の共有』『スキルアップ』『新しい介護』を学びの3本柱として研修プロジェクトを引き続き設置します。

内部研修や外部研修にも積極的に参加できる機会を作ります。また、三番館開設に向けて、認知症や障がい者のグループホームに関する研修を計画的に行います。

メンバーのニーズ及び地域社会の情勢に合わせて介護技術や幅広い知識の習得を目的に、研修計画を策定するとともに、キャリアパスに対応した体系的・継続的な研修を組み立てていきます。

6. 安全衛生委員会

産業医の協力を得ながら、保健師や看護師を中心に適宜検討し、事業所の職場環境および会員の健康保持について情報の共有化を図ります。

まるだいででは、ヨガ、太極拳など腰痛予防も兼ねたミニデイを実施しています

が、介護従事者のため腰痛予防体操を各部門と連携をとり行なっています。

今年度も「心の相談」窓口として公的機関の他に、三重大学竹内佐智恵教授に協力をいただき会員が直接相談できるようにしていくと共に、昨年度発足したハラスメント部会を充実させ、毎年実施している「ストレスチェック」結果を生かしメンタルヘルスの不調を未然に防止するよう努めます。

7. 防災委員会

ぐる一ぶ藤全体で防災対策の整備と取り組みを企画検討する目的で、各部門からの代表者を構成員として防災委員会を設置します。

合同訓練では感染症対策を取り入れ、昨年度作成したBCPに基づき、様々な災害に対する防災訓練や研修を行います。またリスト化された防災用品・備蓄食料の在庫管理を行ない、計画的に更新します。

一番館・二番館・三番館は地域の防災拠点としての役割を担い、近隣へ貢献できるよう、災害についての知識を身につけ、防災意識の向上に努めます。

8. 虐待防止・身体拘束適正化委員会

昨年度設置した虐待防止・身体拘束適正化委員会は今年度も委員会の定期的な開催、検討結果の周知徹底、「虐待防止のための指針」「身体拘束適正化の指針」の見直しを定期的に行います。

虐待防止はスタッフ研修により虐待の5類を確認し、不適切な扱いやケアが行なわれていないか、尊厳が守られているか等をスタッフ一人ひとりが意識し、ご利用者が安心できる環境を作ります。安全衛生委員会と連携しスタッフのストレスマネジメント、労働環境等の確認及び改善も含め虐待の兆候を見逃すことのないよう努めます。身体拘束適正化については体制を維持強化します。

9. 居住支援チーム 住まいる[♠]藤

ぐる一ぶ藤総体の協力を得て指定居住支援法人の活動を進めます。

住宅確保要配慮者への住まい探しからマッチング、契約、その後の安否確認を行うために、様々な知識や社会資源を活用します。また転居のための引越しの手伝いや継続支援の訪問に、法人内で組織された住まいる隊での活動をさらに充実していきます。いろいろな事情を抱えた方からの依頼に出来る限り寄り添って、安定した住まいを探せるように支援します。

今年度は、神奈川県居住支援協議会・居住支援部会による「居住支援に関するコーディネーター（仮称）育成」事業の開催メンバーとして活動します。また、居住支援について広報誌「花どけい」やホームページ等を駆使して、不動産店や大家さんとの相互理解を深め、更に新たな協力不動産店を増やしていきます。市役所関係各課や他の居住支援法人とも連携を深め、藤沢市居住支援協議会の活動を盛んにし安心して住める街づくりを進めます。

10. 外部活動

幼児教室どんぐり園、コンフォール藤沢自治会、柄沢町内会、ボランティアすみれ及び他団体と連携しながら地域に根ざした活動を行います。今年度も地道な活動をするNPOや地域の団体・行事等に「まちづくり対策費」を活用しそれぞれの活動を支援します。

諸団体での役割は以下の通りです。

- ・ 認定NPO法人市民福祉団体全国協議会 代表理事
- ・ 一般社団法人市民福祉支援協議会 代表理事
- ・ 民間介護事業推進委員会 委員
- ・ 藤沢市住まいと暮らし連絡会 委員
- ・ 藤沢市精神障がい者地域生活支援連絡会 委員
- ・ ふじさわ福祉NPO法人連絡会 代表
- ・ 藤沢市相談支援連絡会 委員
- ・ フードバンクふじさわ 副代表
- ・ 藤沢市居住支援協議会 副代表

介護保険はじめ福祉に関して市民の立場に立った提案をしていきます。さらに各種講師等の機会を通して、ぐる一ふ藤の活動を広く紹介するとともに啓発活動を行います。

Ⅱ. 事業内容

1) 特定非営利活動に係る事業

(1) 家事、介護、育児等に関する生活支援サービスおよび相談事業

●本来事業

- ① 内 容：高齢者、障がい者などの介護、家事援助および産後、育児等の生活支援および相談
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市およびその近接地域
- ④ 従事者人員：50名
- ⑤ 対 象 者：40名
- ⑥ 事 業 費：¥718,000

(2) 地域福祉の向上に向けた学習および研修、啓発を図る事業

●介護講座等

- ① 内 容：介護講座
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：ぐるーぷ藤一番館・藤が岡、ヨロシク♪まるだい
- ④ 従事者人員：15名
- ⑤ 対 象 者：藤会員およびさわ会員、地域の方
- ⑥ 研 修 費：¥829,000

(3) 介護保険法にもとづく事業

●訪問介護事業

- ① 内 容：介護保険対象者への訪問介護サービスの提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市域
- ④ 従事者人員：50名
- ⑤ 対 象 者：75名
- ⑥ 事 業 費：¥7,886,000

●通所介護事業

- ① 内 容：介護保険対象者への通所介護サービスの提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市域
- ④ 従事者人員：17名
- ⑤ 対 象 者：230名
- ⑥ 事 業 費：¥18,527,000

●居宅介護支援事業

- ① 内 容：介護保険対象者への居宅介護支援サービスの提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市域
- ④ 従事者人員：5名
- ⑤ 対 象 者：100名
- ⑥ 事 業 費：¥11,154,000

●小規模多機能型居宅介護事業

- ① 内 容：介護保険対象者に「通い」を中心として「泊まり」「訪問」を組み合わせたサービスの提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市域
- ④ 従事者人員：30名
- ⑤ 対 象 者：29名（登録定員）
- ⑥ 事 業 費：¥44,689,000

●看護小規模多機能型居宅介護事業

- ① 内 容：医療依存度の高い介護保険対象者に看護を組み合わせた「通い」を中心として「泊まり」「訪問」「訪問看護」の提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市域
- ④ 従事者人員：30名
- ⑤ 対 象 者：29名（登録定員）
- ⑥ 事 業 費：¥60,709,000

(4) 高齢者・障がい者等に対する居宅介護支援および施設サービス事業

●高齢者住宅

- ① 内 容：高齢者に終の棲家としての住宅及び生活支援サービス提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢地区
- ④ 従事者人員：30名
- ⑤ 対 象 者：21名
- ⑥ 事 業 費：¥41,011,000

●サービス付き高齢者向け住宅

- ① 内 容：高齢者の居住の安定確保、安心を支えるサービスの提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：村岡地区
- ④ 従事者人員：5名
- ⑤ 対 象 者：50名
- ⑥ 事 業 費：¥12,107,000

●認知症グループホーム

- ① 内 容：高齢者の居住の安定確保、安心を支えるサービスの提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：村岡地区
- ④ 従事者人員：20名
- ⑤ 対 象 者：18名
- ⑥ 事 業 費：¥23,236,000

●居宅介護サービス事業

- ① 内 容：障がい者総合支援法対象者への訪問介護サービスの提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市域
- ④ 従事者人員：50名
- ⑤ 対 象 者：65名
- ⑥ 事 業 費：¥7,886,000

●障がい者グループホーム

1. 藤が岡の家

- ① 内 容：障がい者総合支援法対象者へのグループホームの提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢地区
- ④ 従事者人員：5名
- ⑤ 対 象 者：6名
- ⑥ 事 業 費：¥5,368,000

2. 本藤沢の家

- ① 内 容：障がい者総合支援法対象者へのグループホームの提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：善行地区
- ④ 従事者人員：7名
- ⑤ 対 象 者：11名
- ⑥ 事 業 費：¥13,534,500

3. 詩

- ⑦ 内 容：障がい者総合支援法対象者へのグループホームの提供
- ⑧ 日 時：通年
- ⑨ 場 所：村岡地区
- ⑩ 従事者人員：7名
- ⑪ 対 象 者：9名
- ⑫ 事 業 費：¥13,534,500

●障がい者相談支援事業

- ① 内 容：障がい者総合支援法対象者への相談支援サービスの提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市域
- ④ 従事者人員：5名
- ⑤ 対 象 者：50名
- ⑥ 事 業 費：¥3,992,000

(5) 安心して住める地域社会の実現に貢献する事業

●地域ささえあいセンター（ヨロシク♪まるだい）

- ① 内 容：1.生活支援コーディネーターが中心になり誰もが気軽に立ち寄れる通いの場を提供し、地域資源等と連携しさまざまなニーズの把握に努める（委託事業）
2.まるだい食堂での食事の提供やミニデイ、介護・医療相談等通いの場の運営（補助金事業）
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢地区
- ④ 従事者人員：20名
- ⑤ 対 象 者：多数
- ⑥ 事 業 費：¥10,931,000

●子どもの生活支援事業（こども♪まるだい）

- ① 内 容：子供の生活支援事業
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢地区
- ④ 従事者人員：10名
- ⑤ 対 象 者：25名
- ⑥ 事 業 費：¥4,125,000

●居住支援事業（住まいる🏠藤）

- ① 内 容：住宅確保要配慮者への住まい探し、マッチングの後の入居者の生活スタイルに最適な居住継続支援
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市域
- ④ 従事者人員：14名
- ⑤ 対 象 者：92名
- ⑥ 事 業 費：¥3,252,000

(6) レストラン・厨房事業

● レストランオハナ・厨房事業

- ① 内 容：ぐるーぷ藤利用者への食事提供
スタッフおよび一般の方へのレストラン運営
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢地区
- ④ 従事者人員：15名
- ⑤ 対 象 者：多数
- ⑥ 事 業 費：¥24,240,000

● レストランマハロ・厨房事業

- ① 内 容：サ高住にお住まいの方、ぐるーぷ藤 藤の花利用者への
食事提供、スタッフおよび一般の方へのレストラン運営
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：村岡地区
- ④ 従事者人員：10名
- ⑤ 対 象 者：80名
- ⑥ 事 業 費：¥17,989,000

● レストランぐるっぽ・厨房事業

- ① 内 容：三番館にお住まいの方への食事提供、スタッフへおよび
一般の方へのレストラン運営
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：村岡地区
- ④ 従事者人員：5名
- ⑤ 対 象 者：50名
- ⑥ 事 業 費：¥9,484,000

(7) まちづくり活動を行う団体等への支援事業

●まちづくり対策費

- ① 内 容：まちづくり活動を行うNPO法人、障がい者団体等や被災地支援活動を行う団体等に対する寄附事業
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市域、他被災地等
- ④ 従事者人員：5名
- ⑤ 対 象 者：10～15団体
- ⑥ 事 業 費：¥300,000

(8) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

●総合相談窓口

- ① 内 容：福祉・医療に関する相談業務
 - ② 日 時：通年
 - ③ 場 所：藤沢地区
 - ④ 従事者人員：10名
 - ⑤ 対 象 者：多数
- ※各事業費に事業間接費は含まず

2023年度活動予算書（特定非営利活動に係わる事業）

2023年4月1日から2024年3月31日まで

NPO法人ぐるーぶ藤

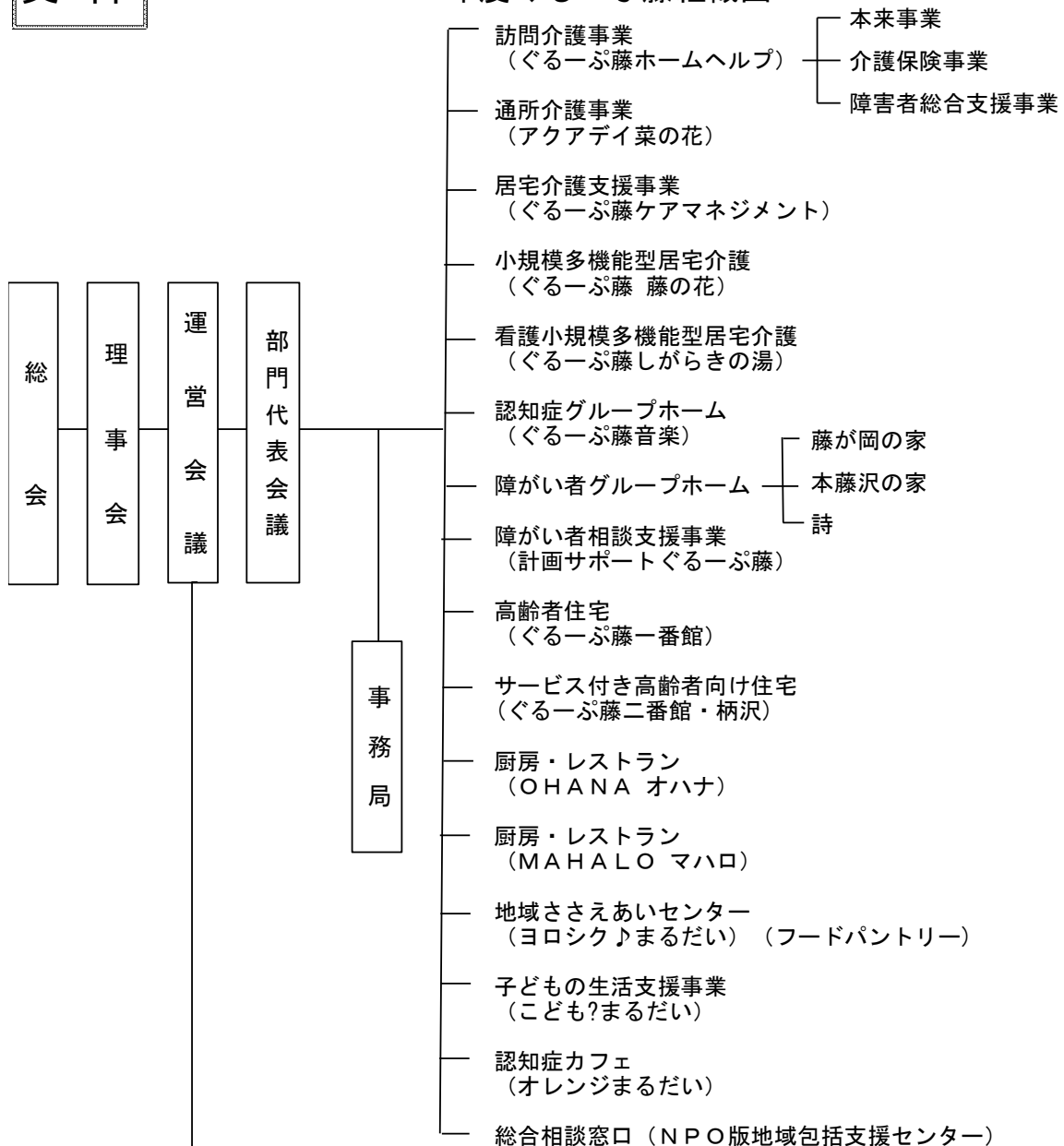
（単位：円）

科 目	金	額
I 経常収益		
1 受取会費		
さわ会員年会費等収入	35,000	
賛助会員年会費等収入	15,000	50,000
2 受取寄付金		
寄付金収入		2,000,000
3 受取助成金等		
助成金・補助金収入	6,320,000	
委託金収入	8,873,000	15,193,000
4 事業収益		
事業収入		536,668,500
5 その他収益		
雑収入		12,669,000
経常収益 計		566,580,500
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		
給料手当等	239,410,000	
有償ボランティア	2,728,000	
通勤交通費	3,818,000	
福利厚生費	804,000	
人件費 計	246,760,000	
(2) その他経費		
食材費	24,973,000	
印刷製本書籍費	1,883,000	
会議・研修費	403,000	
旅費交通費	1,697,000	
通信費	3,653,000	
消耗品費	7,185,000	
修繕費	1,175,000	
水道光熱費	21,063,000	
家賃支出	8,317,000	
リース料	11,118,000	
減価償却費	600,000	
生活支援CD事業費	1,949,000	
保険料・管理諸費	6,155,500	
街づくり対策費	300,000	
雑費	937,000	
その他経費 計	91,408,500	
(3) 事業・間接費		
給料手当等	46,441,000	
賞与手当	13,000,000	
法定福利費	32,450,000	
地代支出	5,988,000	
支払利息	22,251,000	
租税公課	9,235,000	
減価償却費	64,000,000	
事業・間接費 計	193,365,000	
事業費 計		531,533,500

2 管理費			
(1) 人件費			
給料手当等	3,760,000		
有償ボランティア	360,000		
退職金	100,000		
通勤交通費	275,000		
福利厚生費	3,199,000		
人件費計	7,694,000		
(2) その他経費			
印刷製本書籍費	163,000		
会議費	171,000		
旅費交通費	550,000		
販売物品費	1,560,000		
通信費	467,000		
消耗品費	505,000		
修繕費	280,000		
水道光熱費	342,000		
家賃支出	455,000		
リース料	6,301,000		
研修費	809,000		
交際費	100,000		
保険料	1,539,000		
管理諸費	4,811,000		
雑費	3,200,000		
その他経費計	21,253,000		
管理費計		28,947,000	
経常費用計			560,480,500
当期経常増減額			6,100,000
Ⅲ 経常外収益			
経常外収益計			0
Ⅳ 経常外費用			
経常外費用計			0
税引前当期正味財増減額			6,100,000
法人税、住民税及び事業税			70,000
当期正味財産増減額			6,030,000
前期繰越正味財産額			127,302,855
次期繰越正味財産額			133,332,855

資料

2023年度ぐるーぷ藤組織図



居住支援チーム(住まいる藤)

◆メンバー構成◆ 2022.3.31現在

- 安全衛生委員会
- 研修プロジェクト
- 花どけい編集委員会
- 交流会企画委員会
- 防災委員会
- 虐待防止・身体拘束適正化委員会
- 役員報酬検討委員会

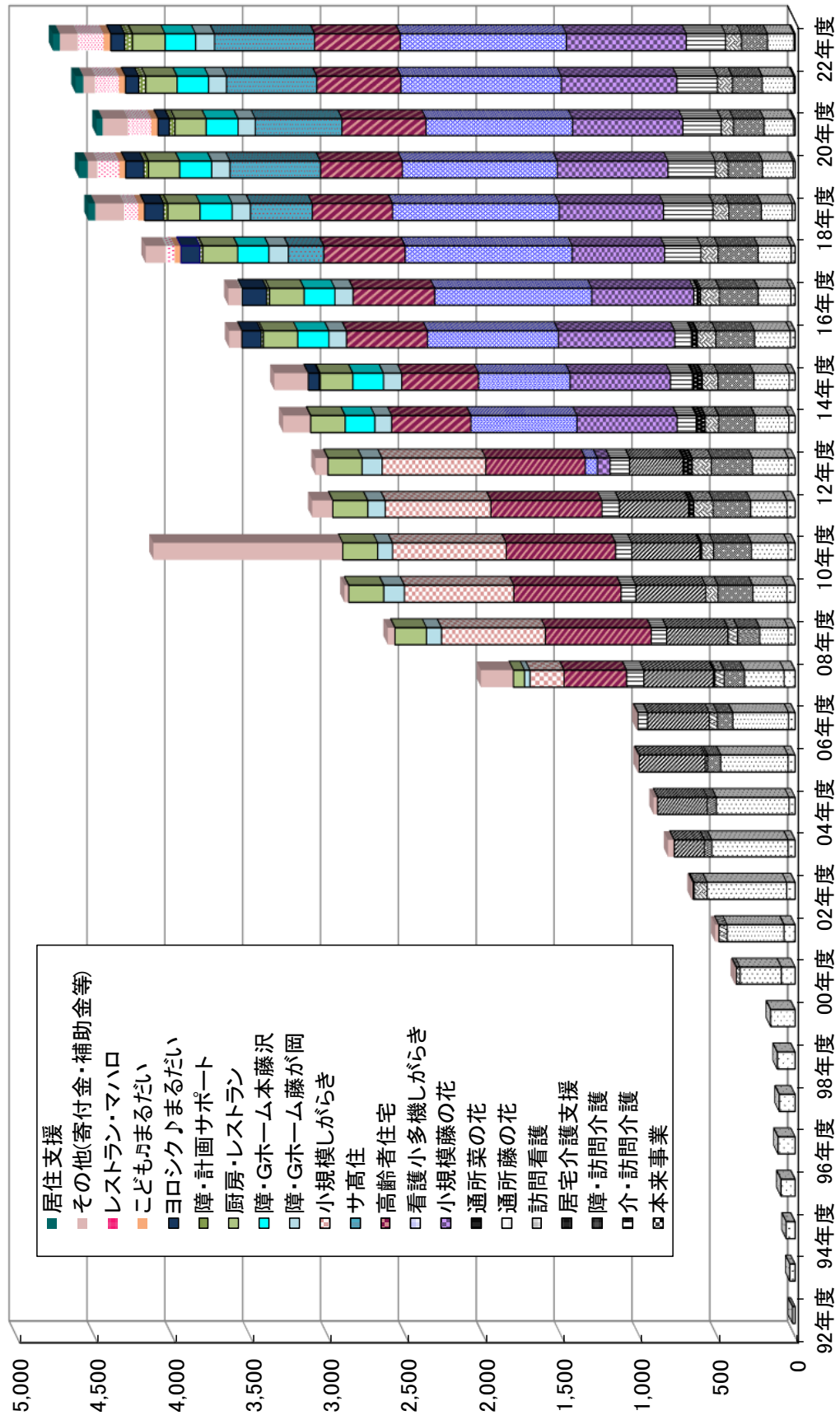
年代	人数	割合
20代	6名	4.1%
30代	2名	1.4%
40代	18名	12.3%
50代	43名	29.5%
60代	37名	25.3%
70代	35名	24.0%
80代	4名	2.7%
90代	1名	0.7%
合計	146名	

※ボランティアすみれ

※フードバンクふじさわ

31年間の事業高推移(1992年～2022年)

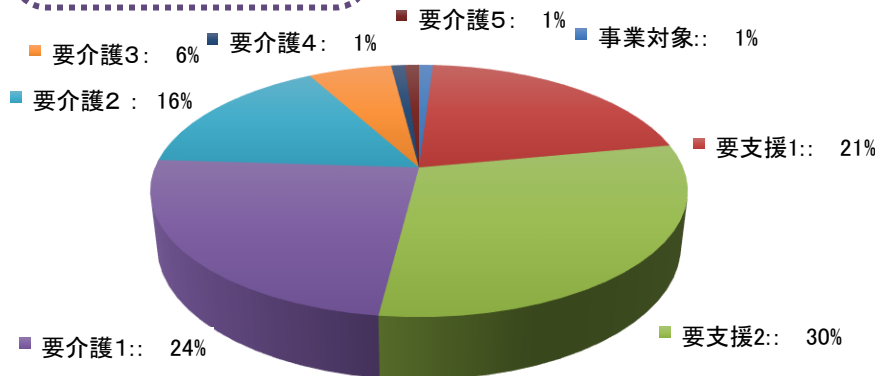
千円



ご利用者 分布

(2023年3月)

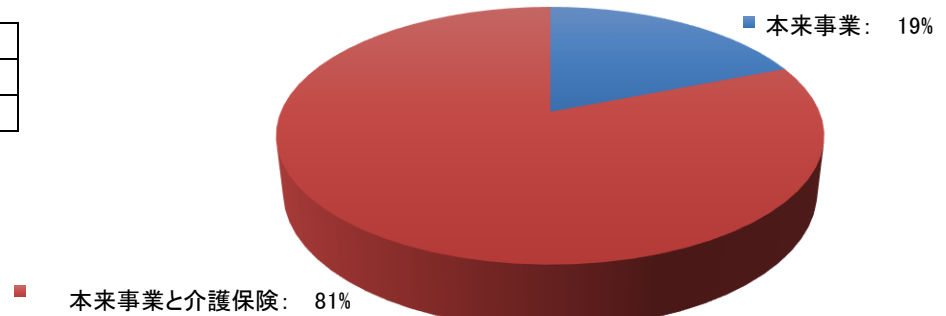
訪問介護(介護保険)



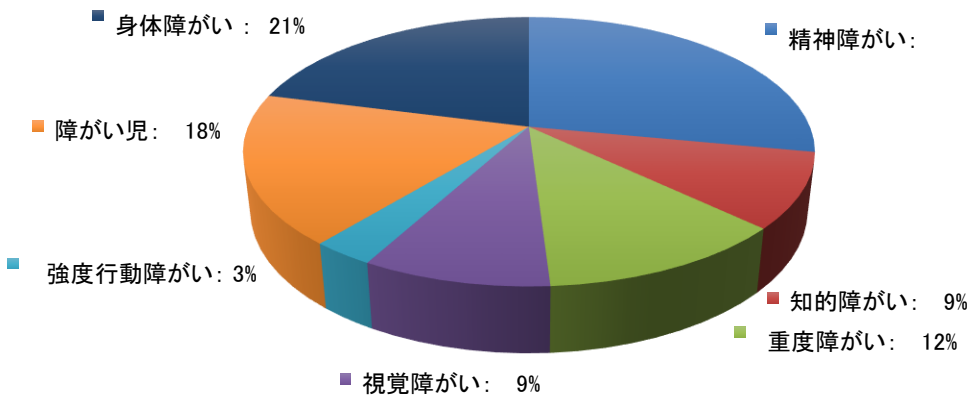
年齢	%
50歳代	2%
60歳代	2%
70歳代	26%
80歳代	52%
90歳代	18%

訪問介護(本来事業)

年齢	%
70歳代	66%
80歳代	34%



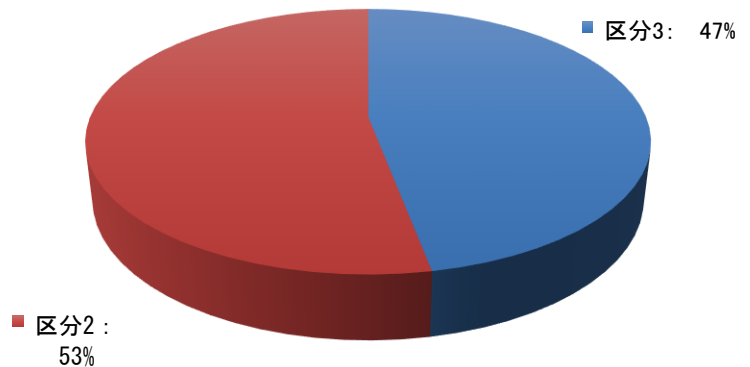
訪問介護(障がい者総合支援)



年齢	%
10歳未満	7%
10歳代	17%
20歳代	23%
30歳代	3%
40歳代	3%
50歳代	30%
60歳代	7%
70歳代	7%
80歳代	3%

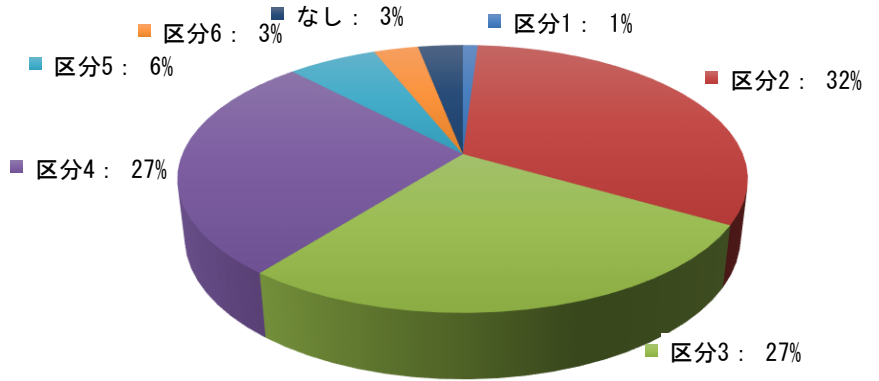
障がい者グループホーム

年齢	%
20歳代	6%
30歳代	24%
40歳代	12%
50歳代	29%
60歳代	29%

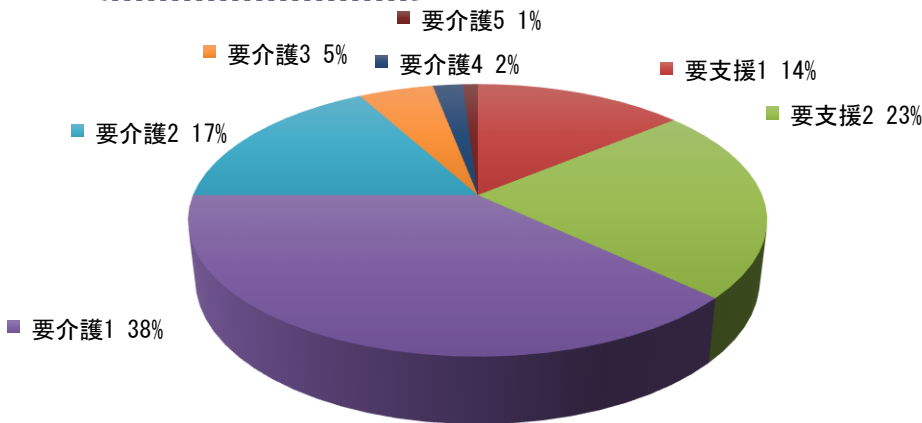


計画サポート

年齢	%
10 歳代	1 %
20 歳代	16 %
30 歳代	18 %
40 歳代	20 %
50 歳代	26 %
60 歳代	18 %
70 歳代	1 %



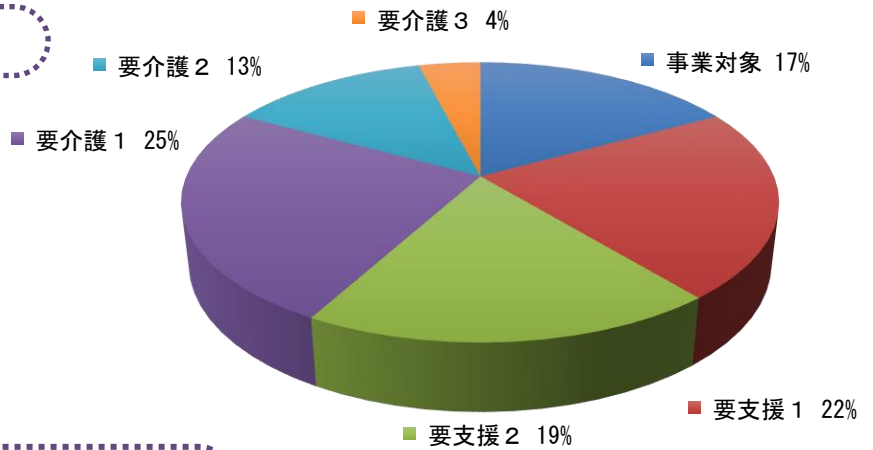
居宅介護支援



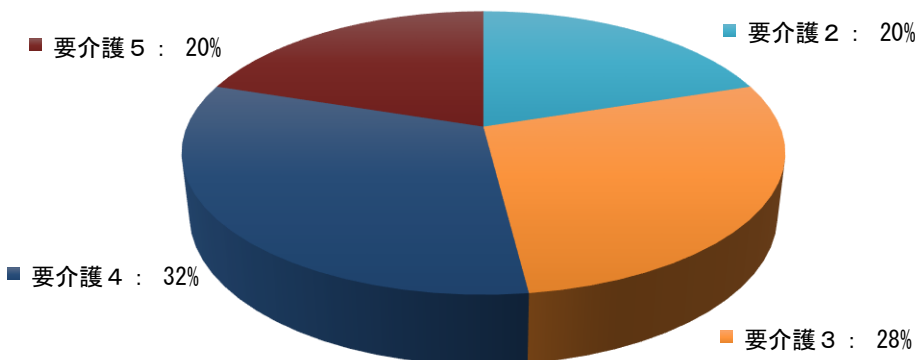
年齢	%
50 歳代	2 %
60 歳代	2 %
70 歳代	15 %
80 歳代	53 %
90 歳代	28 %

通所介護(アクアデイ菜の花)

年齢	%
60 歳代	1 %
70 歳代	27 %
80 歳代	56 %
90 歳代	16 %



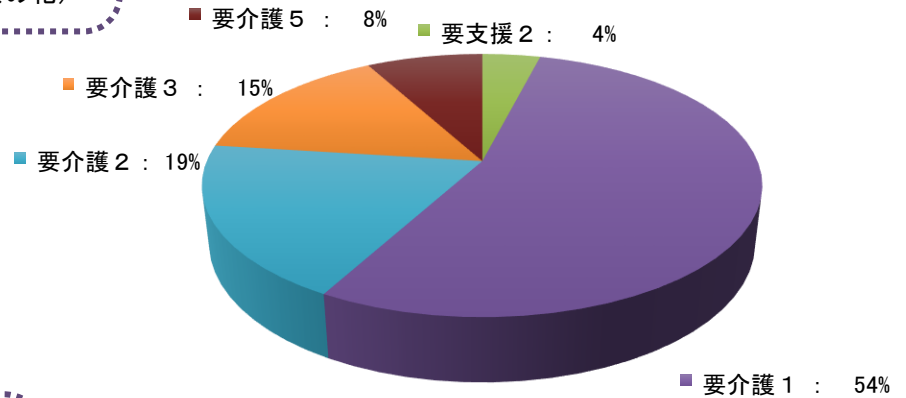
看護小規模多機能型居宅介護(しがらきの湯)



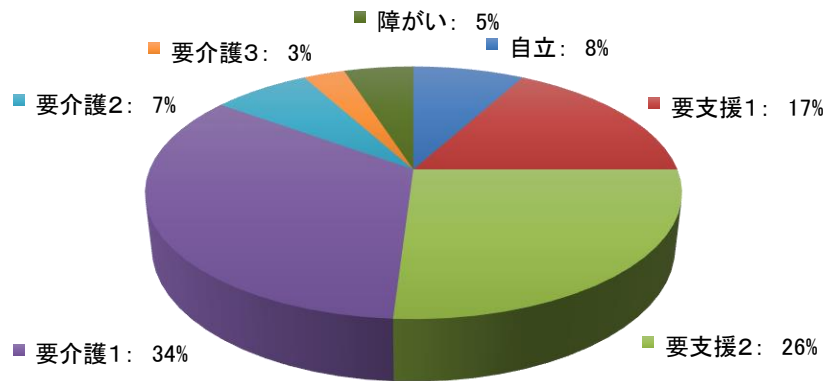
年齢	%
60 歳代	3 %
70 歳代	10 %
80 歳代	52 %
90 歳代	35 %

小規模多機能型居宅介護(藤の花)

年齢	%
70 歳代	19 %
80 歳代	54 %
90 歳代	27 %



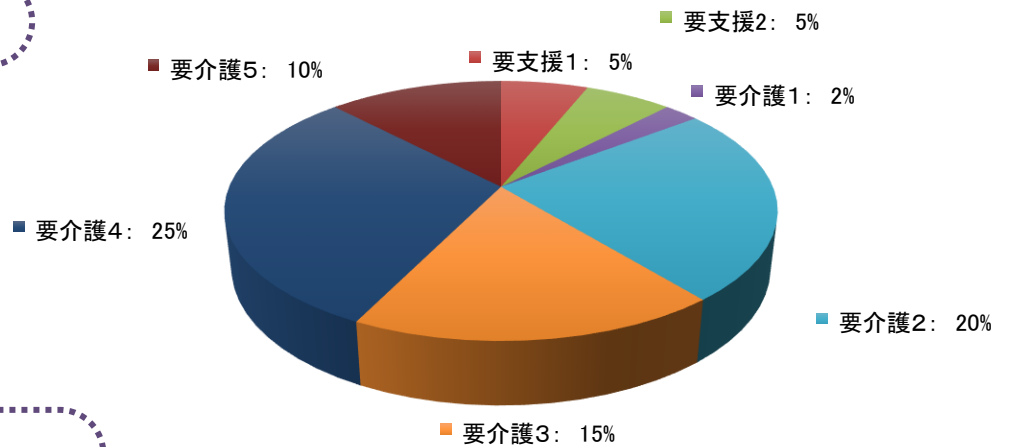
サービス付き高齢者住宅



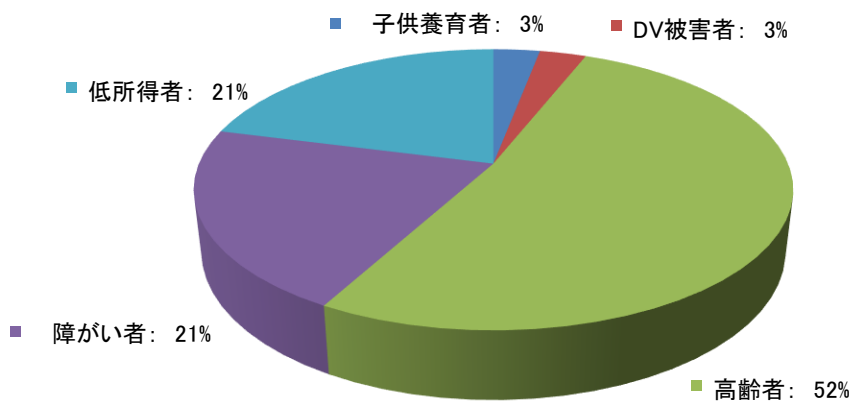
年齢	%
60 歳代	5 %
70 歳代	10 %
80 歳代	56 %
90 歳代	29 %

高齢者住宅(一番館)

年齢	%
80 歳代	40 %
90 歳代	60 %



居住支援法人(住まいる藤)



年齢	%
不明	9 %
10 歳代	1 %
20 歳代	3 %
30 歳代	8 %
40 歳代	6 %
50 歳代	11 %
60 歳代	9 %
70 歳代	18 %
80 歳代	33 %
90 歳代	2 %

2022年度 全体研修・部門別研修

		月 日	名 称
全体研修・部門外研修	内部研修	8月13日	ハラスメントについて
		8月21日	加齢に伴う身体の変化Ⅱ／三重大学教授 竹内先生
		10月2日	救命救急講習
		10月8日	法令遵守
		11月7日～17日(8回)	理事長と語る会(理念研修)
		11月12日	個人情報とプライバシー保護
		11月12日	ストレスマネジメント／稲富先生
		11月21日	管理者研修
		1月20日～2月6日(4回)	スキルアップ研修
		2月16日	「老後を安心して暮らすために」
		2月25日	せっけん講習会
		3月1日	就業規則について
		3月14日	新入会研修
	外部研修	4月22日	映画上映会「不安の正体精神障がい者グループホームと地域」 主催：一般社団法人ラフレックス・NPO法人けやきの会
部門別研修	ホームヘルプ	4月～3月(12回)	ヘルパー会議研修「介護現場におけるハラスメントについて」他
		6月30日	「在宅で注意すべき感染症対策」 主催：村岡包括
		1月24日	ケアプランデータ連携システム説明会 主催：厚生労働省老健局高齢者支援課
		2月17日	介舟ファミリー 意外と知られていない便利な機能 主催：介舟ファミリー
	一番館	4月～3月(12回)	スタッフ会議研修「事業所理念の共有と目標の作成」他
		10月24日	「介護施設のBCP対策義務化！BCPの基本となるコミュニケーションのあり方」 主催：LINEWORKS
	菜の花	4月～3月(7回)	スタッフ会議研修「事故発生予防又は、再発防止」他
	藤の花	4月～3月(12回)	スタッフ会議研修「歩行介助・車椅子介助・ヒヤリハットなど、事故防止につながる事例」他
		6月24日	疫病研修「進行性核上性麻痺」
	しがらきの湯	4月～3月(12回)	スタッフ会議研修「認知症及び認知症ケア」他
		1月25日	WOCナースが伝えたい在宅における褥瘡ケア 主催：神戸市訪問看護ステーション
	厨房	4月～6月(2回)	スタッフ会議研修「盛り付けについて」他
		12月20日	「認知症の人への食支援」 主催：在宅医療トレーニングセンター
		2月8日	地域における食の支援～食べるを支える、食べられないを支える～ 主催：ケアショー・ジャパン
	マハロ	4月～3月(7回)	スタッフ会議研修「HACCPの記入方法」他
		2月8日	食品衛生責任者講習会 主催：藤沢保健所
	まよるだしいク	8月3日	生活支援コーディネーター研修等事業「基本コース」 主催：社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会
		11月8日	食品衛生責任者養成講習会 主催：小田原保健福祉事務所

		月 日	名 称
部門別研修	藤が岡の家・本藤沢の家	6月23日	障害者GH職員研修第2回「障害者GH運営のポイント～運営にあたっての基礎知識～」 主催：かながわ福祉サービス振興会
		6月30日	障害者GH職員研修第3回感染症BCP策定のポイント～GHの対応力強化に向けて 主催：かながわ福祉サービス振興会
		7月5日	障害者GH職員研修第4回重度障害者の地域移行1～強度行動障害の基本的理解 主催：かながわ福祉サービス振興会
		7月20日	障害者GH職員研修第5回重度障害者の地域移行2～強度行動障がい者の支援事例 主催：かながわ福祉サービス振興会
		8月4日	障害者GH職員研修第6回グループホームにおける虐待防止～不適切事例をなくすために～ 主催：かながわ福祉サービス振興会
		8月30日	障害者GH職員研修第7回グループホームの高齢化～どこまでグループホームで対応すべきなのか 主催：かながわ福祉サービス振興会
		12月2日	障害者GH職員研修第8回利用者の性に関する支援 主催：かながわ福祉サービス振興会
		1月31日	神奈川県にも包括 支援者向け研修「精神障害をもつ人に関わるときの支援スキル」 主催：かながわ福祉サービス振興会
		2月24日	「みんなで取組む虐待防止」主催：藤沢市障がい者総合支援協議会
		計画サポートぐるーぷ藤	4/28,5/26,8/25,11/24,1/26,3/23
	5月21日		生きる事・死ぬこととして地域福祉 主催：神奈川県社会福祉士会主催市民講座
	5月26日		スキルアップ研修「藤沢市相談支援の手引きの解説と質疑」 主催：藤沢市障がい者相談支援連絡会
	8月10日		地域協働会議「いわゆる”ごみ屋敷”問題を通して地域の協働を考える」 主催：藤沢病院
	9月17日		「矯正施設退所者への地域支援の可能性を探る」 主催：インクルージョンネットかながわ
	10月21日		「発達障害の方の支援に対する家族との連携について」 主催：発達障害支援センターリート
	10月21日		「精神障がい者家族教室～統合失調症について理解しよう」 主催：藤沢市保健所
	10月27日		スキルアップ研修「高次脳機能障害」 主催：藤沢市障がい者相談支援連絡会
	11月6日		「発達障害の理解と支援～親として・医師として・支援者として」 主催：神奈川県発達障害支援センター
	11月24日		「ひきこもりの支援」 主催：地域生活支援連絡会
	12月3日		「発達障害」新泉こころのクリニック朝倉先生 主催：藤沢市精神保健福祉公開講座
	12月8日		地域協働会議「精神科訪問薬剤師」 主催：藤沢病院
	1月13日		「精神障害の理解と対応」 主催：かながわ福祉サービス振興会
	1月19日		「ヤングケアラー等を支えるために」 主催：藤沢市・社会福祉協議会協
	2月15日		「触法障がい者の地域生活定着支援」 主催：神奈川県地域生活定着支援センター
	7月21日		計画サポートミーティング見学会 就労B[ケースルート、えにしんぐ]
	事務局		4月～3月(12回)
		5月18日19日	LINEWORKS BCP研修 主催：LINEWORKS
		8月18日	ベースアップ加算研修 主催：積水ホームテクノ
		9月21日	介舟ファミリー研修(障がい請求) 主催：介舟ファミリー
	ぐるーぷ藤ケアマネジメント	4月～3月(12回)	ミーティング研修「2時間ルール」他
		6月6日	居宅ケアプランの基本的な考え方と書き方 主催：藤沢市介護保険課
		6月30日	ケアマネサロン「在宅で注意すべき感染症対策」 主催：村岡包括
		10月14日	「対人援助職としてのメンタルケア」 主催：藤沢市居宅介護支援事業所連絡協議会
11月14日		藤沢市認定調査研修 主催：藤沢市介護保険課	
2月17日		ケアマネサロン「多様化する災害への対応」 主催：藤沢東部・西部包括	
「住まいる藤」居住支援チーム	10月25日	居住支援セミナー 主催：特定非営利活動法人 WACさわやかサービス	
	11月22日	かながわ住宅確保要配慮者居住支援セミナー&フォーラムin湘南 主催：NPO法人 樺花まちづくりセンター	
	11月22日	居住支援セミナー 主催：市民協	
	2月20日	パネルディスカッション「居住支援の担い手に思うこと」 主催：神奈川県居住支援協議会	
	2月21日	「精神障がいの知識と理解～精神障がい者が地域で安心して暮らすために」 主催：神奈川県障害福祉課	

年間活動一覧

2022年4月～2023年3月

月	日	内部活動	日	研修、学習	日	外部活動
4月	4	しがらきの湯 リーダー会議	22	映画上映会「不安の正体精神障がい者グループホームと地域」 主催：一般社団法人ラフレックス・NPO法人けやきの会共催	6	14. 20. 28 認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び (一社)市民福祉協議会理事会
	5	部門代表会議	28	グループスーパービジョン 主催：ふじさわ基幹相談支援「えぼめいく」	14	藤沢市住まいと暮らし連絡会
	7	三番館建設準備委員会			19	藤沢市社会福祉協議会生活支援コーディネーター連絡会
	8	しがらきの湯 スタッフ会議			28	藤沢市相談支援連絡会
	9	一番館 スタッフ会議				
	9	運営報告会				
	12	ヨロシクまるだい コーディネーター会議				
	13	ヨロシクまるだい キッチン会議				
	14	計画サポート ミーティング				
	14	こどもまるだい ミーティング				
	18	藤の花 リーダー会議				
	20	厨房会議				
	20	菜の花 スタッフ会議				
	21	マハロ会議				
	21	税理士打ち合わせ				
	21	藤の花・しがらきの湯 合同運営推進会議				
	22	サ高住 ミーティング				
	22	藤の花 スタッフ会議				
	22	藤が岡の家・本藤沢の家 ミーティング				
	25	事務局会議				
	26	住まいる藤 ミーティング				
	26	一番館 リーダー会議				
	27	厨房 ミーティング				
	27	一番館・しがらきの湯・藤の花 三部門ミーティング				
	27	ホームヘルプ ミーティング				
	29	ケアマネ ミーティング				
5月	3	31 運営会議	18	19 LINWORKS BCP研修 主催：LINWORKS	12	18. 26 認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び (一社)市民福祉協議会理事会
	9	しがらきの湯 リーダー会議	21	市民講座「生きる事・死ぬことそして地域福祉」 主催：神奈川県社会福祉士会	12	藤沢市住まいと暮らし連絡会
	10	部門代表会議	26	事例検討会 主催：ふじさわ基幹相談支援「えぼめいく」	16	第1回藤沢市居住支援協議会
	10	ヨロシクまるだい コーディネーター会議	26	グループスーパービジョン 主催：ふじさわ基幹相談支援「えぼめいく」	17	藤沢市社会福祉協議会生活支援コーディネーター連絡会
	10	30周年記念事業実行委員会	26	スキルアップ研修「藤沢市相談支援の手引きの解説と質疑」 主催：藤沢市障がい者相談支援連絡会	17	藤沢地区地域支えあい会議事前打合せ
	12	ナースミーティング			19	藤沢市精神障がい者地域生活支援連絡会
	13	しがらきの湯 スタッフ会議			26	藤沢市相談支援連絡会
	13	一番館 スタッフ会議			29	フードバンク報告会
	14	運営報告会			31	神奈川県居住支援協議会・居住支援部会
	16	藤の花 リーダー会議				
	17	ホームヘルプ ケース会議				
	18	菜の花 スタッフ会議				
	19	計画サポート ミーティング				
	23	事務局会議				
	24	一番館 リーダー会議				
	25	厨房 ミーティング				
	25	一番館・しがらきの湯・藤の花 三部門ミーティング				
	26	ケアマネ ミーティング				
	27	サ高住 ミーティング				
	27	藤が岡の家・本藤沢の家 ミーティング				
	28	第18回通常総会				
	28	第1回理事会				
6月	1	ホームヘルプ ミーティング	6	居宅ケアプランの基本的な考え方と書き方 主催：藤沢市介護保険課	9	15. 22. 29 認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び (一社)市民福祉協議会理事会
	2	住まいる藤 ミーティング	23	障害者GH職員研修「障害者GH運営のポイント～運営にあたっての基礎知識～」 主催：かながわ福祉サービス振興会	21	藤沢市社会福祉協議会生活支援コーディネーター連絡会
	6	しがらきの湯 リーダー会議	30	障害者GH職員研修第3回感染症BCP策定のポイント～GHの対応力強化に向けて 主催：かながわ福祉サービス振興会	24	藤沢地区地域支えあい会議
	9	こどもまるだい ミーティング	30	ケアマネサロン「在宅で注意すべき感染症対策」 主催：村岡包括	27	神奈川県居住支援協議会・居住支援部会
	10	しがらきの湯 スタッフ会議				
	11	一番館 スタッフ会議				
	11	運営報告会				
	14	ヨロシクまるだい コーディネーター会議				
	14	ホームヘルプ ケース会議				
	15	菜の花 スタッフ会議				
	15	厨房会議				
	16	マハロ会議				
	16	藤の花・しがらきの湯 合同運営推進会議				
	20	藤の花 リーダー会議				
	20	事務局会議				
	21	一番館 リーダー会議				
	21	第2回理事会				
	22	一番館・しがらきの湯・藤の花 三部門ミーティング				
	23	研修プロジェクト会議				
	23	ケアマネ ミーティング				
	23	事務局 システム打ち合わせ				
	24	藤の花 スタッフ会議				
	24	税理士打ち合わせ				
	24	サ高住 ミーティング				
	24	藤が岡の家・本藤沢の家 ミーティング				
	28	運営会議				
	29	ホームヘルプ ミーティング				
	29	住まいる藤 ミーティング				
7月	5	部門代表会議	5	障害者GH職員研修第4回重度障害者の地域移行1 ～強度行動障害の基本的理解 主催：かながわ福祉サービス振興会	2	地域ケア会議 主催：村岡包括
	8	一番館 スタッフ会議	20	障害者GH職員研修第5回重度障害者の地域移行2 ～強度行動障がい者の支援事例 主催：かながわ福祉サービス振興会	6	14. 20. 27 認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び (一社)市民福祉協議会理事会
	9	ホームヘルプ ケース会議			14	第2回藤沢市居住支援協議会
	9	運営報告会			14	藤沢市住まいと暮らし連絡会
	11	藤の花 リーダー会議			19	藤沢市社会福祉協議会生活支援コーディネーター連絡会
	11	三番館建設準備委員会			19	フードバンクパントリー連絡会
	12	ヨロシクまるだい コーディネーター会議			21	藤沢市精神障がい者地域生活支援連絡会
	14	安全衛生委員会			25	神奈川県居住支援協議会・居住支援部会
	15	交流会企画委員会				
	19	19. 27 30周年記念事業実行委員会				
	20	菜の花 スタッフ会議				
	21	計画サポート ミーティング				
	22	藤が岡の家・本藤沢の家 ミーティング				
	22	サ高住 ミーティング				
	25	事務局会議				
	26	一番館 リーダー会議				
	28	防災委員会				
	28	ケアマネミーティング				
	28	税理士打ち合わせ				
8月	1	安全衛生委員会	3	生活支援コーディネーター研修等事業「基本コース」 主催：社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会	3	10. 24. 31 認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び (一社)市民福祉協議会理事会
	1	住まいる藤 ミーティング	4	障害者GH職員研修グループホームにおける虐待防止 ～不適切事例をなくすために～ 主催：かながわ福祉サービス振興会	4	藤沢市住まいと暮らし連絡会
	2	30 運営会議	10	地域協議会議「いわゆる”ごみ屋敷”問題を通して地域の協働を考える」 主催：藤沢病院	23	藤沢市社会福祉協議会生活支援コーディネーター連絡会
	2	ホームヘルプ ミーティング	13	運営報告会研修 ハラスメントについて 主催：研修PJ	25	藤沢市相談支援連絡会
	9	部門代表会議	18	ベースアップ加算研修 主催：積水ホームテクノ	29	藤沢市居住支援協議会「住まい探し相談会」
	9	しがらきの湯 リーダー会議	21	加齢に伴う身体の変化Ⅱ/三重大学教授 竹内先生 主催：研修PJ		
	9	ヨロシクまるだい コーディネーター会議	25	グループスーパービジョン 主催：ふじさわ基幹相談支援「えぼめいく」		
	10	藤の花 リーダー会議	30	障害者GH職員研修グループホームの高齢化 ～どこまでグループホームで対応すべきなのか 主催：かながわ福祉サービス振興会		
	11	こどもまるだい ミーティング				
	13	運営報告会				
	18	計画サポート ミーティング				
	22	事務局会議				
	23	一番館 リーダー会議				
	25	ケアマネ ミーティング				
	26	サ高住 ミーティング				
	26	藤が岡の家・本藤沢の家 ミーティング				
	26	税理士打ち合わせ				
9月	1	ホームヘルプ ミーティング	17	「矯正施設退所者への地域支援の可能性を探る」 主催：インクルージョンネットかながわ	6	神奈川県居住支援協議会・居住支援部会
	2	住まいる藤 ミーティング	21	介舟ファミリー研修（障がい請求）主催：介舟ファミリー	8	藤沢市住まいと暮らし連絡会
	5	しがらきの湯 リーダー会議			14	22 認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び (一社)市民福祉協議会理事会
	8	研修プロジェクト会議			14	藤沢地区地域ケア会議
	9	しがらきの湯 スタッフ会議			20	藤沢市社会福祉協議会生活支援コーディネーター連絡会
	9	一番館 スタッフ会議			16	認知症（オレンジキャンペーン）主催：藤沢市介護保険課
	10	運営報告会				
	12	藤の花 リーダー会議				
	12	30周年記念事業実行委員会				
	13	ヨロシクまるだい コーディネーター会議				
	20	第3回理事会				
	21	藤の花 スタッフ会議				
	22	ケアマネ ミーティング				
	23	サ高住 ミーティング				
	23	藤が岡の家・本藤沢の家 ミーティング				
	26	事務局会議				
	26	税理士打ち合わせ				
	26	一番館 リーダー会議				
	27	運営会議				

月	日	内 部 活 動	日	研 修、学 習	日	外 部 活 動
	28	ホームヘルプ ミーティング				

月	日	内 部 活 動	日	研 修、学 習	日	外 部 活 動
10月	3	しがらきの湯 リーダー会議	2	救命救急講習 主催：研修PJ	5	12.19 認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び (一社)市民福祉協議会理事会
	3	住まいる藤 ミーティング	8	運営報告会研修 法令遵守 主催：研修PJ	13	藤沢市村岡地区地域ケア会議 主催：村岡包括
	4	部門代表会議	14	ケアマネ全体研修会「対人援助職としてのメンタルケア」 主催：藤沢市居宅介護支援事業所連絡協議会	18	藤沢市社会福祉協議会生活支援コーディネーター連絡会
	7	しがらきの湯 スタッフ会議	21	「発達障害の方の支援に対する家族との連携について」 主催：発達障害支援センターリード	18	フードバンクふじさわ連絡会議
	8	一番館 スタッフ会議	21	「精神障がい者家族教室～統合失調症について理解しよう」 主催：藤沢市保健所	21	第3回藤沢市居住支援協議会
	8	運営報告会	24	「介護施設のBCP対策義務化！BCPの基本となるコミュニケーションのあり方」 主催：LINEWORKS	27	藤沢市相談支援連絡会
	10	藤の花 リーダー会議	25	居住支援セミナー 主催：特定非営利活動法人 WACさわやかサービス		
	10	マハロ会議	27	スキルアップ研修「高次脳機能障害」主催：藤沢市障がい者相談支援連絡会		
	11	ホームヘルプ ケース会議				
	13	こどもまるだい ミーティング				
	17	安全衛生委員会				
	19	アケアデイ菜の花 スタッフ会議				
	20	計画サポート ミーティング				
	20	藤の花・しがらきの湯 合同運営推進会議				
	20	30周年記念事業実行委員会				
	24	三番館建設準備委員会				
	25	一番館 リーダー会議				
	25	事務局会議				
	27	藤の花 スタッフ会議				
	27	ケアマネ ミーティング				
	28	サ高住 ミーティング				
	28	藤が岡の家・本藤沢の家 ミーティング				
	29	税理士打ち合わせ				
	31	花どけい委員会				
11月	1,29	運営会議	6	「発達障害の理解と支援～親として・医師として・支援者として」 主催：神奈川県発達障害支援センター	29,16,30	認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び (一社)市民福祉協議会理事会
	2	ホームヘルプ ミーティング	7	理事長と語る会 主催：研修PJ	10	藤沢市住まいと暮らし連絡会
	7	しがらきの湯 リーダー会議	8	食品衛生責任者養成講習会 主催：小田原保健福祉事務所	15	藤沢市社会福祉協議会生活支援コーディネーター連絡会
	7	住まいる藤 ミーティング	9	理事長と語る会 主催：研修PJ	16	藤沢地区地域ケア会議
	8	ヨロシクまるだい コーディネーター会議	10	理事長と語る会 主催：研修PJ	17	藤沢市精神障がい者地域生活支援連絡会
	8	部門代表会議	11	理事長と語る会 主催：研修PJ	17	藤沢市障がい児者ヘルパー事業所連絡会定例会 主催：ヘルパー事業所連絡会
	11	一番館 スタッフ会議	12	運営報告会研修 個人情報とプライバシー保護 主催：研修PJ	18	藤沢地区地域支えあい会議事前打合せ
	11	しがらきの湯 スタッフ会議	12	ストレスマネジメント/稲富先生 主催：研修PJ		
	12	ホームヘルプ ケース会議	14	藤沢市認定調査研修 主催：藤沢市介護保険課		
	12	運営報告会	14	理事長と語る会 主催：研修PJ		
	14	藤の花 リーダー会議	15	理事長と語る会 主催：研修PJ		
	19	事務局会議	16	理事長と語る会 主催：研修PJ		
	22	一番館 リーダー会議	17	理事長と語る会 主催：研修PJ		
	22	藤の花 スタッフ会議	21	管理者研修 主催：研修PJ		
	24	計画サポート ミーティング	22	かながわ住宅確保要配慮者居住支援セミナー&フォーラムin湘南 主催：NPO法人 横花まちづくりセンター		
	24	ケアマネ ミーティング	22	居住支援セミナー 主催：市民協		
	24	事務局 システム打ち合わせ	24	「ひきこもりの支援」主催：地域生活支援連絡会		
	24	研修プロジェクト会議				
	24	30周年記念事業実行委員会				
	25	税理士打ち合わせ				
	25	サ高住 ミーティング				
	25	藤が岡の家・本藤沢の家 ミーティング				
	25	ヨロシクまるだい キッチン会議				
12月	1	ホームヘルプ ミーティング	2	障害者GH職員研修第8回利用者の性に関する支援 主催：かながわ福祉サービス振興会	7	14.26 認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び (一社)市民福祉協議会理事会
	2	住まいる藤 ミーティング	3	「発達障害」新泉こころのクリニック朝倉先生 主催：藤沢市精神保健福祉公開講座	9	藤沢地区地域支えあい会議
	5	藤の花 リーダー会議	8	地域協働会議「精神科訪問薬剤師」主催：藤沢病院	15	第4回藤沢市居住支援協議会
	6	部門代表会議	20	「認知症の人への食支援」 主催：在宅医療トレーニングセンター	20	藤沢市社会福祉協議会生活支援コーディネーター連絡会
	8	こどもまるだい ミーティング				
	8	30周年記念事業実行委員会				
	10	運営報告会				
	13	ヨロシクまるだい コーディネーター会議				
	15	計画サポート ミーティング				
	15	藤の花・しがらきの湯 合同運営推進会議				
	19	一番館 リーダー会議				
	19	税理士打ち合わせ				
	19	事務局会議				
	20	第4回理事会				
	21	事務局 システム打ち合わせ				
	23	サ高住 ミーティング				
	23	藤が岡の家・本藤沢の家 ミーティング				
	28	ケアマネミーティング				
1月	4	ホームヘルプ ミーティング	13	「精神障害の理解と対応」主催：かながわ福祉サービス振興会	11	25 認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び (一社)市民福祉協議会理事会
	6	住まいる藤 ミーティング	19	「ヤングケアラー等を支えるために」主催：藤沢市社会福祉協議会協	12	藤沢市住まいと暮らし連絡会
	10	ヨロシクまるだい コーディネーター会議	20	スキルアップ研修「リハビリのネタ等」主催：研修PJ	17	藤沢市社会福祉協議会生活支援コーディネーター連絡会
	13	藤の花 リーダー会議	24	スキルアップ研修「腰痛予防」 主催：研修PJ	17	フードバンクふじさわ連絡会議
	14	運営報告会・新年会	24	ケアプランデータ連携システム説明会 主催：厚生労働省老健局高齢者支援課	18	藤沢地区地域ケア会議
	14	ホームヘルプ ケース会議	25	WOCナースが伝えたい在宅における褥瘡ケア 主催：神戸市訪問看護ステーション	26	藤沢市相談支援連絡会
	15	厨房会議	26	グループスーパービジョン 主催：ふじさわ基幹相談支援「えぼめいく」	30	居住支援に関するコーディネーター育成事業プレイベント企画会議
	18	アケアデイ菜の花 スタッフ会議	31	神奈川県にも包括 支援者向け研修 「精神障害をもつ人に関わるときの支援スキル」 主催：かながわ福祉サービス振興会	31	ケアマネサロン&個別相談 主催：藤沢市介護保険課
	19	計画サポート ミーティング				
	26	ケアマネ ミーティング				
	27	藤が岡の家・本藤沢の家 ミーティング				
	27	税理士打ち合わせ				
	30	一番館 リーダー会議				
	30	事務局会議				
	10	部門代表会議				
	31	運営会議				
2月	1	ホームヘルプ ミーティング	2	スキルアップ研修 根拠ある介護より「挨拶・言葉掛け」主催：研修PJ	1	8.15.22 認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び (一社)市民福祉協議会理事会
	3	住まいる藤 ミーティング	6	スキルアップ研修「障がいDVD」主催：研修PJ	9	藤沢市住まいと暮らし連絡会
	6	しがらきの湯 リーダー会議	8	食品衛生責任者講習会 主催：藤沢保健所	21	藤沢市社会福祉協議会生活支援コーディネーター連絡会
	7	部門代表会議	8	地域における食の支援～食べるを支える、食べられないを支える～ 主催：ケアショージャパン	24	藤沢地区地域支えあい会議
	8	藤の花 リーダー会議	15	「触法障がい者の地域生活定着支援」 主催：神奈川県地域生活定着支援センター		
	9	こどもまるだい ミーティング	16	「老後を安心して暮らすために」主催：ボランティアすみれ		
	11	一番館 スタッフ会議	17	ケアマネサロン「多様化する災害への対応」 主催：藤沢東部・西部包括		
	11	運営報告会	17	介舟ファミリー 意外と知られていない便利な機能 主催：介舟ファミリー		
	11	ホームヘルプ ケース会議	20	パネルディスカッション「居住支援の担い手に思うこと」 主催：神奈川県居住支援協議会		
	13	藤の花 スタッフ会議	21	「精神障がいの知識と理解～精神障がい者が地域で安心して暮らすために」 主催：神奈川県福祉課		
	14	ヨロシクまるだい コーディネーター会議	24	「みんなで取組む虐待防止」 主催：藤沢市障がい者総合支援協議会		
	15	厨房会議	25	せつけん講習会 主催：研修PJ		
	16	計画サポート ミーティング				
	20	防災委員会				
	23	ケアマネ ミーティング				
	23	税理士打ち合わせ				
	23	サ高住 ミーティング				
	24	藤が岡の家・本藤沢の家 ミーティング				
	27	事務局会議				
	27	一番館 リーダー会議				
	28	運営会議				
3月	1	ホームヘルプ ミーティング	1	運営報告会研修 就業規則について 主催：研修PJ	1	8.15.22.29 認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び (一社)市民福祉協議会理事会
	5	藤の花 リーダー会議	14	新人研修 主催：研修PJ	9	藤沢市住まいと暮らし連絡会
	6	しがらきの湯 リーダー会議	23	グループスーパービジョン 主催：ふじさわ基幹相談支援「えぼめいく」		
	6	31 住まいる藤 ミーティング				
	10	しがらきの湯 スタッフ会議				
	10	マハロ会議				
	11	運営報告会				
	14	ヨロシクまるだい コーディネーター会議				
	14	藤の花 スタッフ会議				
	15	アケアデイ菜の花 スタッフ会議				
	16	計画サポート ミーティング				
	18	事務局会議				
	21	税理士打ち合わせ				
	23	ケアマネ ミーティング				
	23	事務局 システム打ち合わせ				
	24	サ高住 ミーティング				
	24	藤が岡の家・本藤沢の家 ミーティング				
	28	運営会議				
	28	第5回理事会				